

◆ 滋賀県 ◆

景況調査結果報告書

平成 29 年度第 1・四半期

(平成 29 年 4 月～6 月)

目 次	
概要	1
企業調査	6
今期の状況	7
大企業	12
中小企業	14
製造業	16
建設業	18
卸売業	20
小売業	22
サービス業	24
大津地域	26
南部地域	28
甲賀地域	30
東近江地域	32
湖東地域	34
湖北地域	36
高島地域	38
集計表	40
景気調査	44
追加調査	54

滋賀県商工観光労働部商工政策課

滋賀県景況調査（平成 29 年 4 月～6 月期）結果報告書（概要版）

■ 企業調査

1 結果概要

(1) 今期（平成 29 年 4 月～6 月）の県内企業の景況（前期（平成 29 年 1 月～3 月）との比較）

- ・ 業況、売上の各 DI：マイナス幅が縮小した。
- ・ 生産、経常利益の各 DI：マイナス幅が拡大した。
- ・ 雇用の水準 DI：マイナス幅が縮小し、不足感が弱まった。

(2) 規模別

- ・ 大企業：業況 DI はマイナスからプラスに転じた。
- ・ 中小企業：業況 DI はマイナス幅が縮小した。

(3) 業種別

- ・ 製造業：業況 DI はマイナス幅が拡大した。
- ・ 建設業、卸売業、小売業：業況 DI はマイナス幅が縮小した。
- ・ サービス業：業況 DI はマイナスからプラスに転じた。

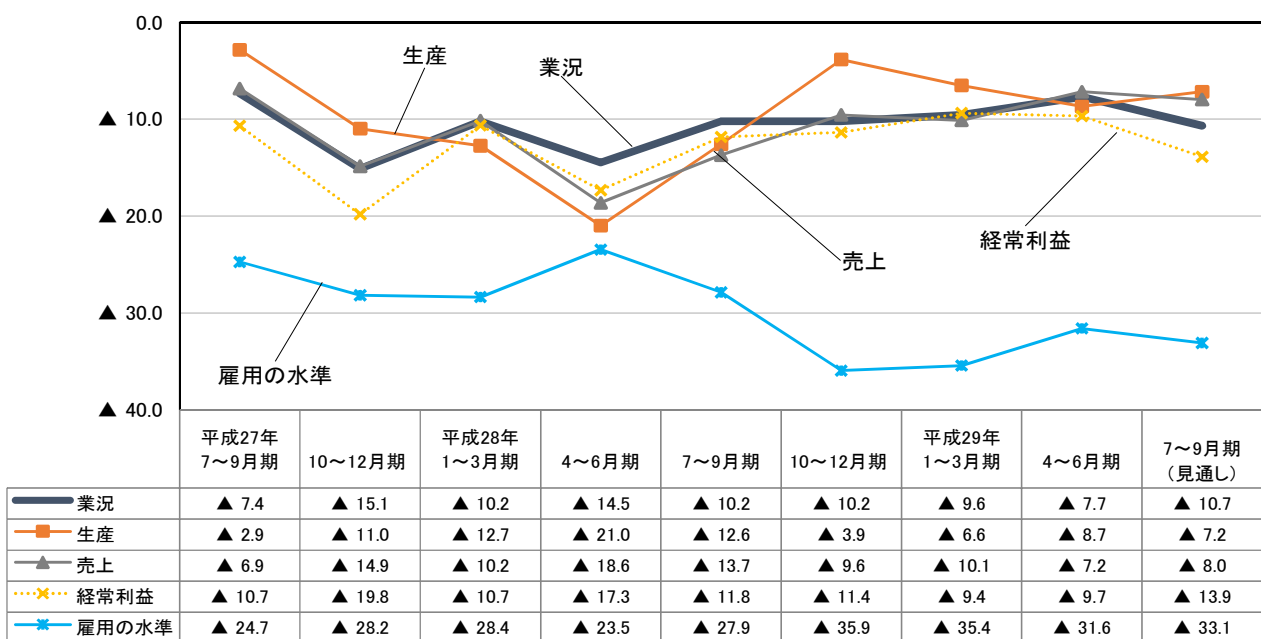
(4) 地域別

- ・ 大津地域：業況 DI はプラスからマイナスに転じた。
- ・ 南部地域、甲賀地域、東近江地域、高島地域：業況 DI はマイナス幅が縮小した。
- ・ 湖東地域、湖北地域：業況 DI はマイナス幅が拡大した。

(5) 来期（平成 29 年 7 月～9 月）の見通し

- ・ 業況、売上、経常利益の各 DI：マイナス幅が拡大する見通し。
- ・ 生産 DI：マイナス幅が縮小する見通し。
- ・ 雇用の水準 DI：マイナス幅が拡大し、不足感が強まる見通し。

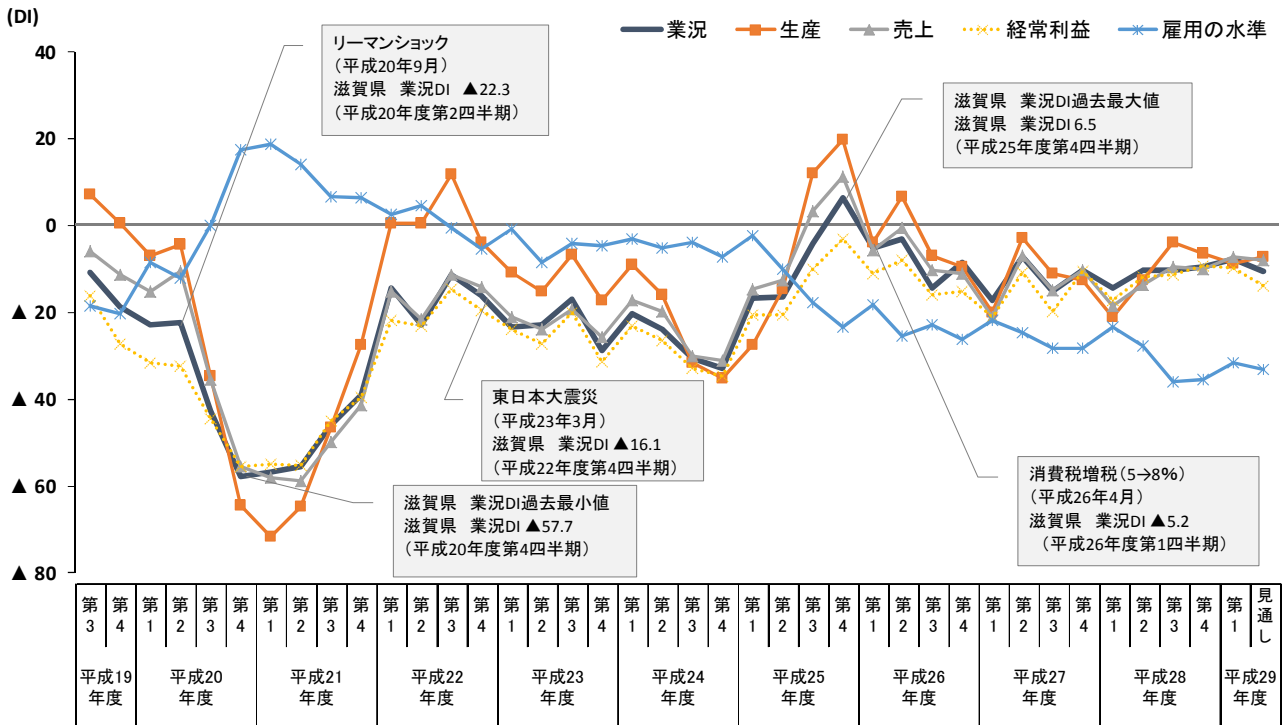
各種 DI の動き（実績）と来期の見通し



各種DIの動き（実績）と来期の見通し

	業況		業況(見通し)		生産		売上		採算		雇用の水準	
	今期	対前期	来期	対今期	今期	対前期	今期	対前期	今期	対前期	今期	対前期
全産業	▲ 7.7	1.9	▲ 10.7	▲ 3.0	▲ 8.7	▲ 2.1	▲ 7.2	2.9	▲ 9.7	▲ 0.3	▲ 31.6	3.8
製造業	▲ 9.6	▲ 1.3	▲ 11.0	▲ 1.4	▲ 8.7	▲ 2.1	▲ 9.9	2.2	▲ 10.3	▲ 2.7	▲ 28.9	2.2
建設業	▲ 5.4	0.4	▲ 17.3	▲ 11.9	-	-	▲ 16.0	▲ 5.7	▲ 6.8	▲ 1.1	▲ 42.7	1.0
卸売業	▲ 12.0	1.3	▲ 9.5	2.5	-	-	▲ 11.9	▲ 3.0	▲ 16.7	▲ 3.1	▲ 22.5	▲ 0.9
小売業	▲ 24.3	5.6	▲ 18.9	5.4	-	-	▲ 24.3	▲ 15.3	▲ 28.2	▲ 8.5	▲ 35.0	9.8
サービス業	0.8	5.1	▲ 4.3	▲ 5.1	-	-	9.1	16.5	▲ 2.8	6.5	▲ 32.9	6.3
大企業	27.7	32.4	22.2	▲ 5.5	10.0	4.6	27.7	30.1	5.5	▲ 0.4	▲ 44.5	1.6
中小企業	▲ 8.8	1.5	▲ 11.7	▲ 2.9	▲ 9.4	▲ 1.1	▲ 8.2	3.1	▲ 10.2	1.5	▲ 31.2	2.6
大津地域	▲ 5.3	▲ 9.2	▲ 12.6	▲ 7.3	2.8	▲ 20.3	▲ 3.2	▲ 9.0	▲ 12.6	▲ 21.4	▲ 37.0	▲ 5.8
南部地域	0.0	3.1	▲ 2.5	▲ 2.5	1.2	▲ 12.4	2.4	0.1	▲ 4.3	▲ 3.5	▲ 35.2	4.4
甲賀地域	▲ 4.4	22.8	▲ 11.0	▲ 6.6	▲ 21.5	11.2	▲ 5.4	20.1	▲ 9.8	20.3	▲ 28.3	▲ 1.5
東近江地域	▲ 4.5	3.6	▲ 4.6	▲ 0.1	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 9.0	▲ 2.6	2.7	7.2	▲ 30.6	8.7
湖東地域	▲ 31.6	▲ 22.8	▲ 35.1	▲ 3.5	▲ 34.8	▲ 18.6	▲ 36.8	▲ 16.8	▲ 33.3	▲ 24.4	▲ 36.2	13.8
湖北地域	▲ 19.6	▲ 7.2	▲ 22.0	▲ 2.4	0.0	7.5	▲ 11.7	10.8	▲ 21.5	0.7	▲ 25.0	1.7
高島地域	▲ 14.8	6.9	▲ 3.7	11.1	▲ 10.0	25.0	▲ 7.4	10.0	▲ 11.1	8.5	▲ 10.7	23.3

DIの推移：平成19年度第3四半期～29年度第1四半期



2 調査概要

- ①調査期間……平成29年4月～6月
 ②調査客体……県内の事業所
 ③調査方法……郵送アンケートおよび訪問、電話によるヒアリング調査

※本調査でのDI（ディフュージョン・インデックス）：

「増加（好転・上昇・過剰等）」と回答した事業所数の構成比から、「減少（悪化・低下・不足等）」と回答した事業所数の構成比を差し引いた値。

生産DI、売上DIは前年同期と比較した「増加－減少」、経常利益DI、業況DIは前年同期と比較した「好転－悪化」、雇用の水準DIは今期水準の「過剰－不足」の軸を用いて算出。

来期の見通しについては、生産DI、売上DIは3カ月後の前年同期と比較した「増加－減少」、経常利益DI、業況DIは3カ月後の前年同期と比較した「好転－悪化」、雇用の水準DIは3カ月後水準の「過剰－不足」の軸を用いて算出。

④調査企業数

() の数字は大企業数

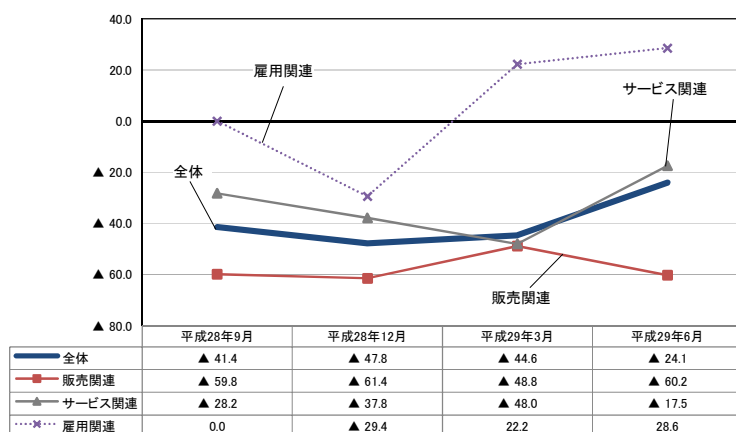
	合計	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業
合計	612(18)	302(10)	78(0)	42(0)	40(4)	150(4)
産業費別比率	100.0%	49.3%	12.7%	6.9%	6.5%	24.5%
大津地域	97(4)	36(2)	18(0)	9(0)	7(2)	27(0)
南部地域	168(5)	86(2)	22(0)	13(0)	9(2)	38(1)
甲賀地域	95(5)	58(5)	5(0)	4(0)	5(0)	23(0)
東近江地域	111(2)	63(0)	12(0)	6(0)	9(0)	21(2)
湖東地域	59(2)	23(1)	9(0)	5(0)	3(0)	19(1)
湖北地域	53(0)	25(0)	9(0)	4(0)	4(0)	11(0)
高島地域	29(0)	11(0)	3(0)	1(0)	3(0)	11(0)

■ 景気調査

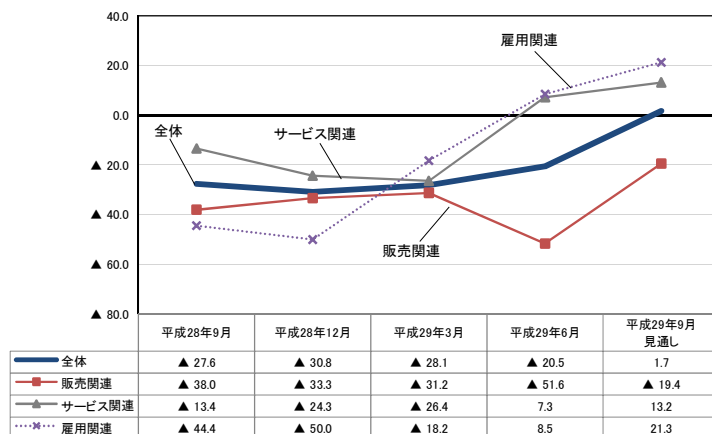
1 結果概要

- (1) 全体の景気の水準 DI : ▲24.1(マイナス幅縮小)
 <調査客体別>
 ・販売関連 DI : ▲60.2(マイナス幅拡大)
 ・サービス関連 DI : ▲17.5(マイナス幅縮小)
 ・雇用関連 DI : 28.6(プラス幅拡大)
- (2) 3か月前と比較した全体の景気の方向性 DI : ▲20.5(マイナス幅縮小)
 <調査客体別>
 ・販売関連 DI : ▲51.6(マイナス幅拡大)
 ・サービス関連 DI : 7.3(プラスに転じた)
 ・雇用関連 DI : 8.5(プラスに転じた)
- (3) 3か月先の見通しに関する全体の景気方向性 DI : 1.7(プラスに転じる見通し)
 <調査客体別>
 ・販売関連 DI : ▲19.4(マイナス幅縮小の見通し)
 ・サービス関連 DI : 13.2(プラス幅拡大の見通し)
 ・雇用関連 DI : 21.3(プラス幅拡大の見通し)

景気の水準 DI



景気の方向性 DI



2 調査概要

- ①調査期間…平成29年6月1日を基準日とする前後1週間
- ②調査客体…県内にある事業所に就業する者で、経済活動の動向を敏感に反応する現象を観察できる職種
 <販売関連>
 大型小売店、コンビニエンスストア、電気量販店、商店街などに就業する者
 <サービス関連>
 ホテル、旅館、旅行代理店、タクシー会社、カルチャー施設などに就業する者
 <雇用関連>
 公共的施設、人材派遣業に就業する者
- ③調査方法…郵送によるアンケート調査
- ④回収状況…127件

※DIの算出方法

各評価の回答数に、それぞれ以下のウェイトを乗じた数値をもとに、各評価の構成割合を出し、好転（良い、やや良い）の割合から悪化（やや悪い、悪い）の割合を差し引いて、DIを算出しています。

評価	「良い」 (あるいは「良くなっている」)	「やや良い」 (あるいは「やや良くなっている」)	「どちらとも言えない」	「やや悪い」 (あるいは「やや悪くなっている」)	「悪い」 (あるいは「悪くなっている」)
ウェイト	3	2	1	2	3

企 業 調 査

今期の状況

天気図の見方

業況 DI の数値が次のどの範囲にあるかにより、天気図で表示している。

					
30 ≤ DI (特に好調)	15 ≤ DI < 30 (好調)	0 ≤ DI < 15 (やや好調)	▲15 ≤ DI < 0 (やや不振)	▲30 ≤ DI < ▲15 (不振)	DI < ▲30 (きわめて不振)

<企業規模別>

全体



業況 DI は前期に比べマイナス幅が縮小した。売上 DI はマイナス幅が縮小、経常利益 DI はマイナス幅が拡大した。来期の業況 DI は今期に比べマイナス幅が拡大する見通しである。

大企業



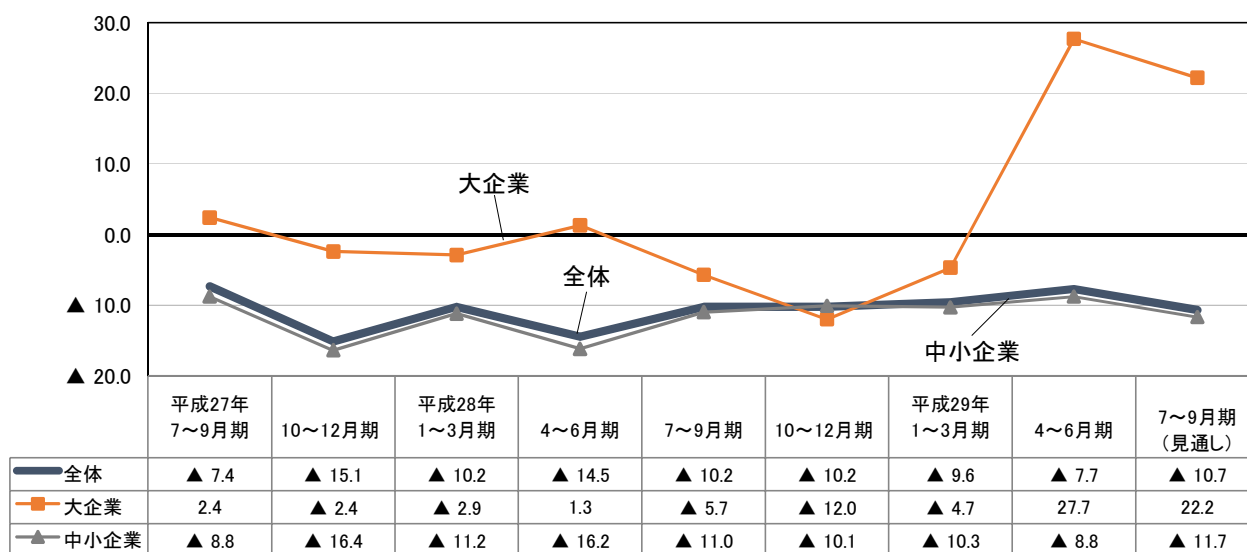
業況 DI は前期に比べマイナスからプラスに転じた。売上 DI はマイナスからプラスに転じ、経常利益 DI はプラス幅が縮小した。来期の業況 DI は今期に比べプラス幅が縮小する見通しである。

中小企業



業況 DI は前期に比べマイナス幅が縮小した。売上 DI、経常利益 DI はともにマイナス幅が縮小した。来期の業況 DI は今期に比べマイナス幅が拡大する見通しである。

企業規模別業況の動き（実績）と来期の見通し



<業種別>

製造業



業況 DI は前期に比べマイナス幅が拡大した。売上 DI はマイナス幅が縮小し、経常利益 DI はマイナス幅が拡大した。来期の業況 DI は今期に比べマイナス幅が拡大する見通しである。

建設業



業況 DI は前期に比べマイナス幅が縮小した。売上 DI、経常利益 DI はともにマイナス幅が拡大した。来期の業況 DI は今期に比べマイナス幅が拡大する見通しである。

卸売業



業況 DI は前期に比べマイナス幅が縮小した。売上 DI、経常利益 DI はともにマイナス幅が拡大した。来期の業況 DI は今期に比べマイナス幅が縮小する見通しである。

小売業



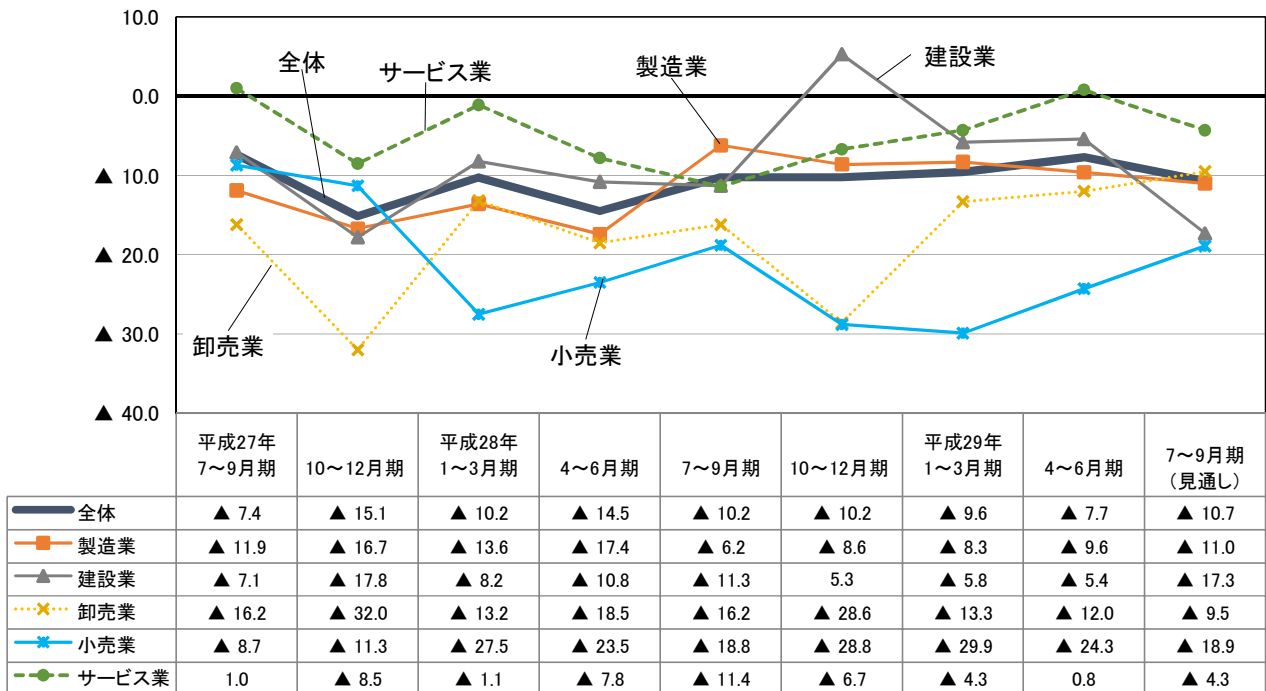
業況 DI は前期に比べマイナス幅が縮小した。売上 DI、経常利益 DI は、ともにマイナス幅が拡大した。来期の業況 DI は今期に比べマイナス幅が縮小する見通しである。

サービス業



業況 DI は前期に比べマイナスからプラスに転じた。売上 DI はマイナスからプラスに転じ、経常利益 DI はマイナス幅が縮小した。来期の業況 DI は今期に比べプラスからマイナスに転じる見通しである。

業種別業況の動き（実績）と来期の見通し



<地域別>

大津地域



業況 DI は前期に比べプラスからマイナスに転じた。売上 DI、経常利益 DI はともにプラスからマイナスに転じた。来期の業況 DI は今期に比べマイナス幅が拡大する見通しである。

南部地域



業況 DI は前期に比べマイナス幅が縮小した。売上 DI はプラス幅が拡大し、経常利益 DI はマイナス幅が拡大した。来期の業況 DI は今期に比べマイナス幅が拡大する見通しである。

甲賀地域



業況 DI は前期に比べマイナス幅が縮小した。売上 DI、経常利益 DI は、ともにマイナス幅が縮小した。来期の業況 DI は今期に比べマイナス幅が拡大する見通しである。

東近江地域



業況 DI は前期に比べマイナス幅が縮小した。売上 DI はマイナス幅が拡大し、経常利益 DI はマイナスからプラスに転じた。来期の業況 DI は若干ながらマイナス幅が拡大する見通しである。

湖東地域



業況 DI は前期に比べマイナス幅が拡大した。売上 DI、経常利益 DI はともにマイナス幅が拡大した。来期の業況 DI は今期に比べマイナス幅が拡大する見通しである。

湖北地域



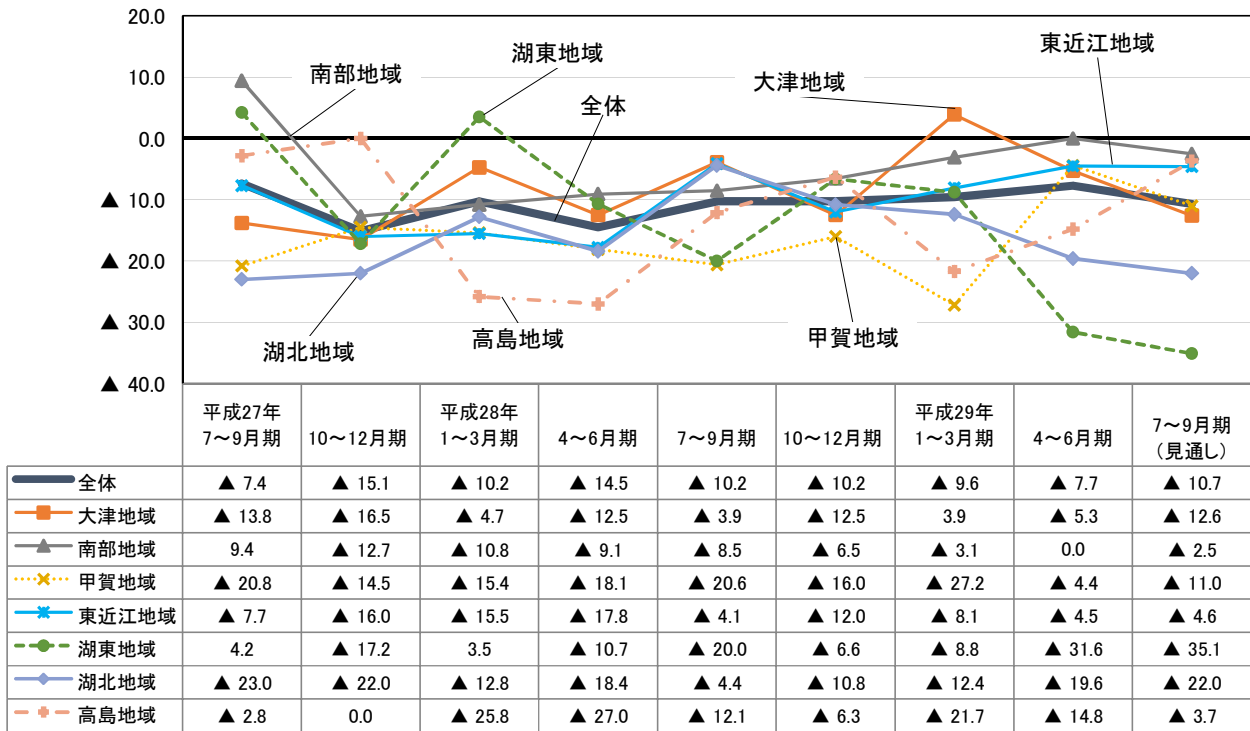
業況 DI は前期に比べマイナス幅が拡大した。売上 DI、経常利益 DI はともにマイナス幅が縮小した。来期の業況 DI は今期に比べマイナス幅が拡大する見通しである。

高島地域

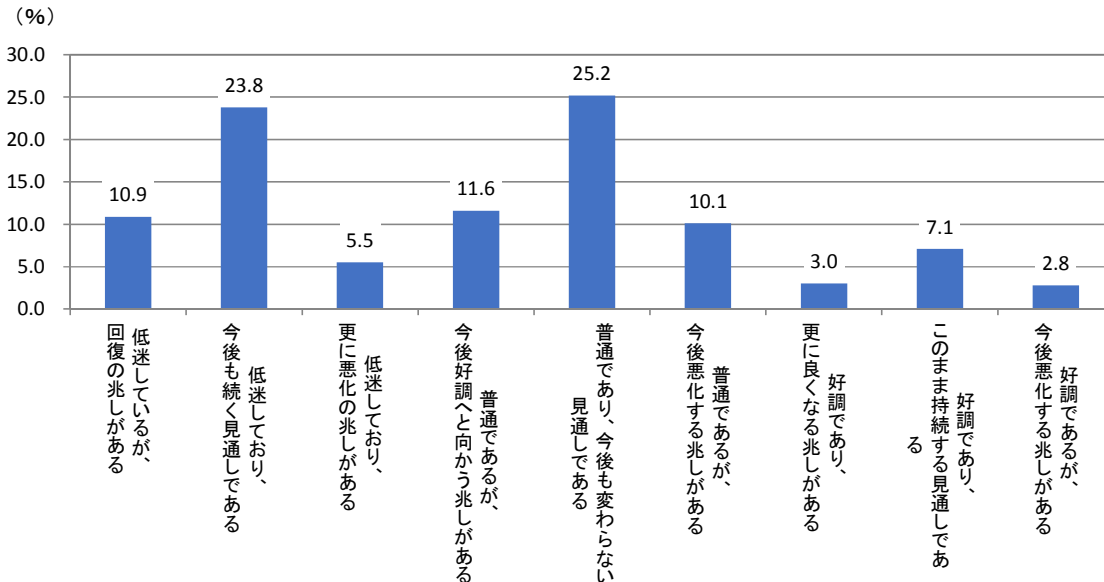


業況 DI は前期に比べマイナス幅が縮小した。売上 DI、経常利益 DI は、ともにマイナス幅が縮小した。来期の業況 DI は今期に比べマイナス幅が縮小する見通しである。

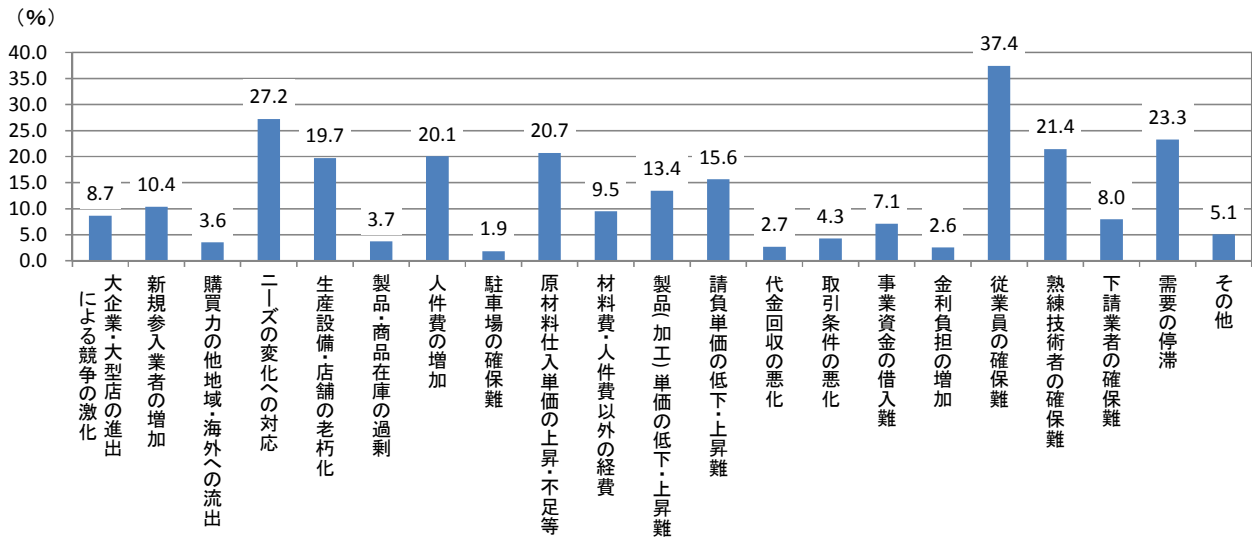
地域別業況の動き（実績）と来期の見通し



業況判断（今期の水準）



経営上の問題点（複数回答）



大 企 業



売上・収益の動向と業況判断

業況 DI は前期に比べ 32.4 ポイント増の 27.7 とマイナスからプラスに転じた。生産 DI は前期に比べ 4.6 ポイント増の 10.0 とプラス幅が拡大した。売上 DI は前期に比べ 30.1 ポイント増の 27.7 とマイナスからプラスに転じた。経常利益 DI は前期に比べ 0.4 ポイント減の 5.5 とプラス幅が縮小した。引合 DI は前期に比べ 27.0 ポイント増の 29.4 とプラス幅が拡大した。採算の水準 DI は前期に比べ 23.5 ポイント減の 44.4 とプラス幅が縮小した。

来期は、業況 DI は今期に比べ 5.5 ポイント減の 22.2 とプラス幅が縮小する見通しである。生産 DI は今期に比べ 40.0 ポイント増の 50.0、売上 DI は今期に比べ 16.7 ポイント増の 44.4、経常利益 DI は今期に比べ 11.2 ポイント増の 16.7 といずれもプラス幅が拡大する見通しである。引合 DI は増減なく 29.4 と今期と変わらない見通しである。採算の水準 DI は今期に比べ 8.6 ポイント増の 53.0 とプラス幅が拡大する見通しである。

在庫動向

在庫数量 DI は前期に比べ 16.3 ポイント増の 14.3 とマイナスからプラスに転じた。来期は、増減なく 14.3 と今期と変わらない見通しである。

雇用の水準

雇用の水準 DI は前期に比べ 1.6 ポイント増の▲44.5 とマイナス幅が縮小した。来期は、今期に比べ 5.6 ポイント増の▲38.9 とマイナス幅が縮小する見通しである。

金融関係

資金繰り DI は前期に比べ 6.9 ポイント減の▲5.5 とプラスからマイナスに転じた。長期資金借入難易度 DI は前期に比べ 1.7 ポイント減の 5.5、短期資金借入難易度 DI は前期に比べ 2.2 ポイント減の 5.5 と、ともにプラス幅が縮小した。

来期は、資金繰り DI は今期に比べ 5.6 ポイント減の▲11.1 とマイナス幅が拡大する見通しである。長期資金借入難易度 DI は増減なく 5.5、短期資金借入難易度 DI は増減なく 5.5 と、ともに今期と変わらない見通しである。

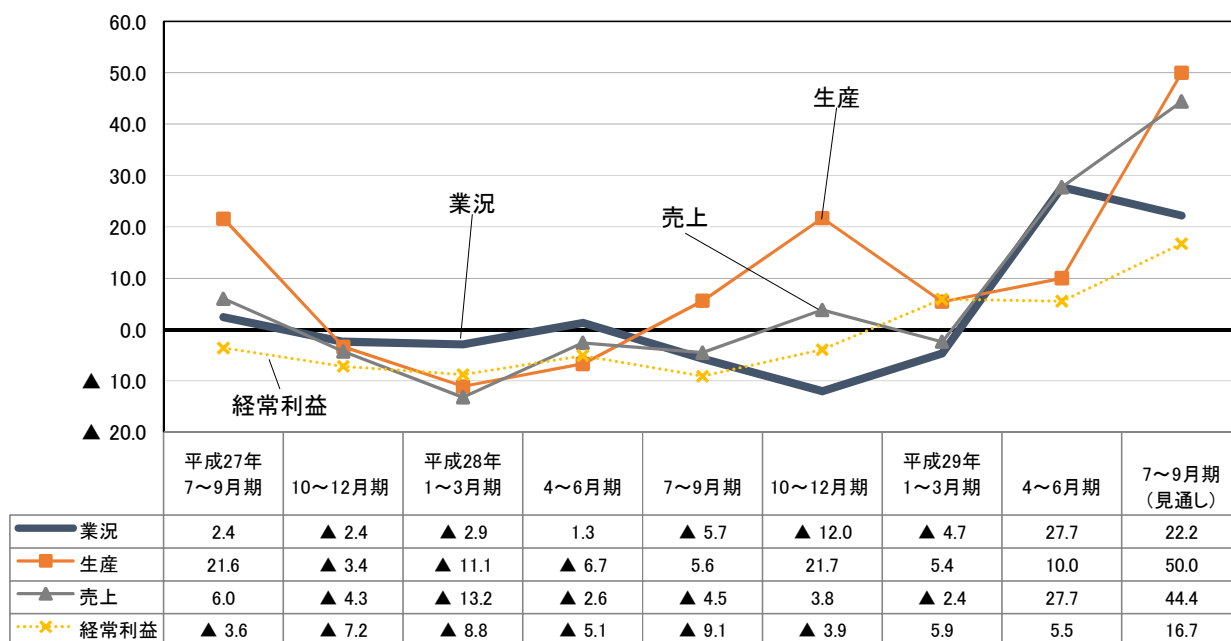
設備投資

設備投資実施企業割合は前期に比べ 4.8 ポイント減の 50.0%と減少した。来期は、今期に比べ 5.6 ポイント増の 55.6%と増加する見通しである。

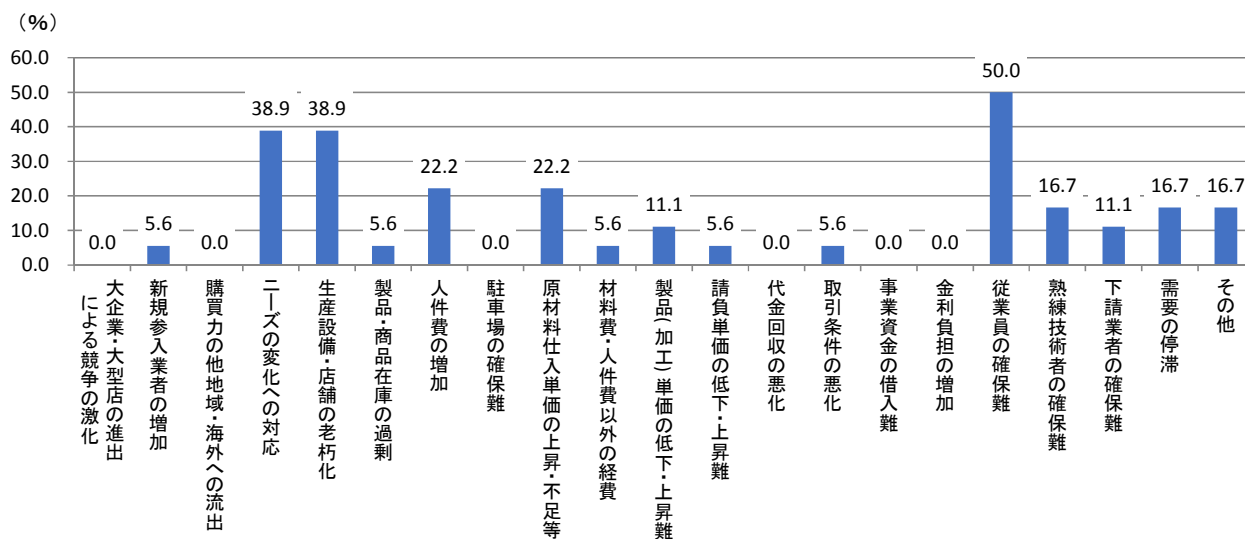
経営上の問題点

経営上の問題点は、1 位が「従業員の確保難」で 50.0%、2 位が「ニーズの変化への対応」「生産設備・店舗の老朽化」でともに同率の 38.9%であった。

生産・売上・経常利益・業況の動き（実績）と来期の見通し



経営上の問題点（複数回答）



中小企業



売上・収益の動向と業況判断

業況DIは前期に比べ1.5ポイント増の▲8.8とマイナス幅が縮小した。生産DIは1.1ポイント減の▲9.4とマイナス幅が拡大した。売上DIは3.1ポイント増の▲8.2、経常利益DIは1.5ポイント増の▲10.2とマイナス幅が縮小した。引合DIは0.6ポイント減の▲12.9とマイナス幅が拡大した。採算の水準DIは7.6ポイント減の17.4とプラス幅が縮小した。

来期は、業況DIは今期に比べ2.9ポイント減の▲11.7とマイナス幅が拡大する見通しである。生産DIは0.2ポイント増の▲9.2とマイナス幅が縮小し、売上DIは1.4ポイント減の▲9.6、経常利益DIは4.8ポイント減の▲15.0、引合DIは0.2ポイント減の▲13.1といずれもマイナス幅が拡大する見通しである。採算の水準DIは2.7ポイント増の20.1とプラス幅が拡大する見通しである。

在庫動向

在庫数量DIは前期に比べ1.0ポイント増の▲7.5とマイナス幅が縮小した。

来期は、今期に比べ3.7ポイント減の▲11.2とマイナス幅が拡大する見通しである。

雇用の水準

雇用の水準DIは前期に比べ2.6ポイント増の▲31.2とマイナス幅が縮小した。

来期は、今期に比べ1.7ポイント減の▲32.9とマイナス幅が拡大する見通しである。

金融関係

資金繰りDIは前期に比べ2.4ポイント増の▲1.7とマイナス幅が縮小した。長期資金借入難易度DIは前期に比べ7.0ポイント減の5.5、短期資金借入難易度DIは5.7ポイント減の12.3と、ともにプラス幅が縮小した。

来期は、資金繰りDIは今期に比べ4.2ポイント減の▲5.9とマイナス幅が拡大する見通しである。長期資金借入難易度DIは今期に比べ3.0ポイント減の2.5、短期資金借入難易度DIは3.1ポイント減の9.2と、ともにプラス幅が縮小する見通しである。

設備投資

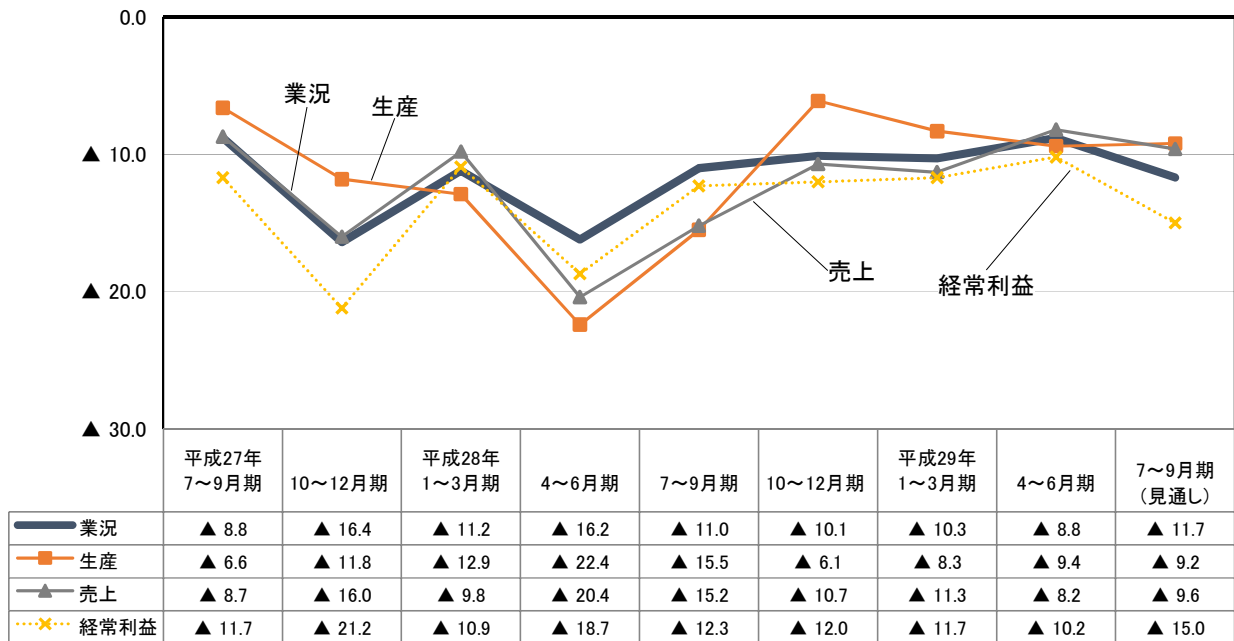
設備投資実施割合は前期に比べ7.8ポイント減の24.3%と減少した。

来期は、今期に比べ3.9ポイント増の28.2%と増加する見通しである。

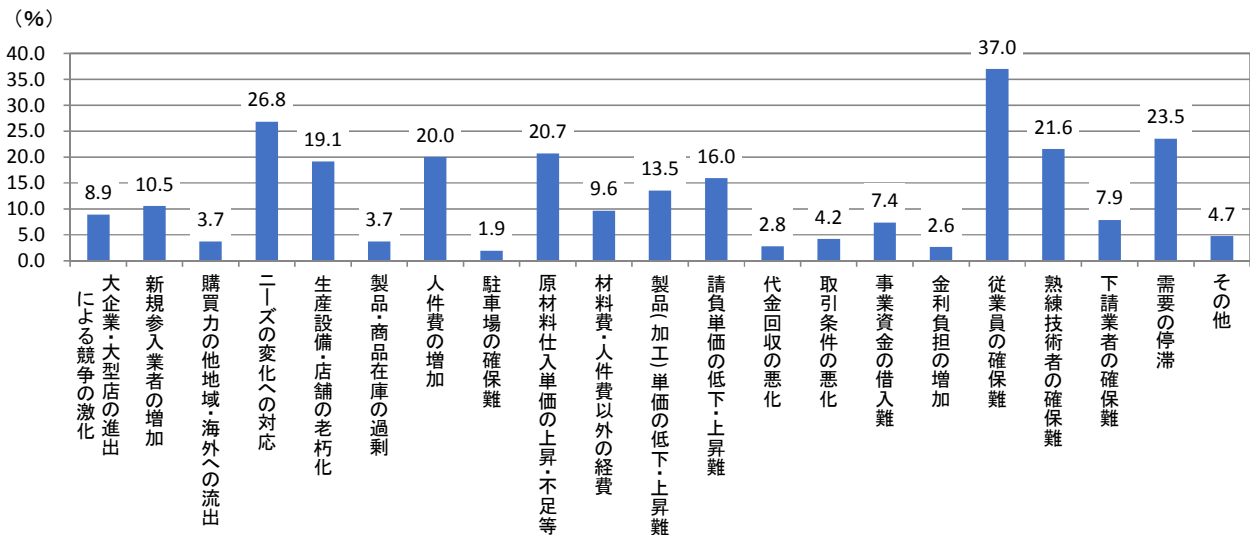
経営上の問題点

経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」で37.0%、2位が「ニーズの変化への対応」で26.8%、3位が「需要の停滞」で23.5%であった。

生産・売上・経常利益・業況の動き（実績）と来期の見通し



経営上の問題点（複数回答）



製 造 業

<前期>

<今期>

<来期>



売上・収益の動向と業況判断

業況 DI は前期に比べ 1.3 ポイント減の▲9.6 とマイナス幅が拡大した。生産 DI は前期に比べ 2.1 ポイント減の▲8.7 とマイナス幅が拡大した。売上 DI は前期に比べ 2.2 ポイント増の▲9.9 とマイナス幅が縮小した。経常利益 DI は前期に比べ 2.7 ポイント減の▲10.3、引合 DI は前期に比べ 6.2 ポイント減の▲11.7 と、ともにマイナス幅が拡大した。採算の水準 DI は前期に比べ 21.0 ポイント減の 16.1 とプラス幅が縮小した。

来期は、業況 DI は今期に比べ 1.4 ポイント減の▲11.0 とマイナス幅が拡大する見通しである。生産 DI は今期に比べ 1.5 ポイント増の▲7.2 とマイナス幅が縮小する見通しである。売上 DI は今期に比べ 0.2 ポイント減の▲10.1、経常利益 DI は今期に比べ 4.4 ポイント減の▲14.7 と、ともにマイナス幅が拡大する見通しである。引合 DI は今期に比べ 2.2 ポイント増の▲9.5 とマイナス幅が縮小する見通しである。採算の水準 DI は今期に比べ 4.7 ポイント増の 20.8 とプラス幅が拡大する見通しである。

在庫動向

在庫数量 DI は前期に比べ 1.0 ポイント減の▲7.6 とマイナス幅が拡大した。
来期は、今期に比べ 1.9 ポイント減の▲9.5 とマイナス幅が拡大する見通しである。

雇用の水準

雇用の水準 DI は前期に比べ 2.2 ポイント増の▲28.9 とマイナス幅が縮小した。
来期は、今期に比べ 0.5 ポイント減の▲29.4 とマイナス幅が拡大する見通しである。

金融関係

資金繰り DI は前期に比べ 1.5 ポイント増の▲2.7 とマイナス幅が縮小した。長期資金借入難易度 DI は前期に比べ 11.1 ポイント減の 2.6、短期資金借入難易度 DI は前期に比べ 8.7 ポイント減の 11.2 と、ともにプラス幅が縮小した。

来期は、資金繰り DI は今期に比べ 4.3 ポイント減の▲7.0 とマイナス幅が拡大する見通しである。長期資金借入難易度 DI は今期に比べ 1.9 ポイント減の 0.7、短期資金借入難易度 DI は今期に比べ 2.6 ポイント減の 8.6 と、ともにプラス幅が縮小する見通しである。

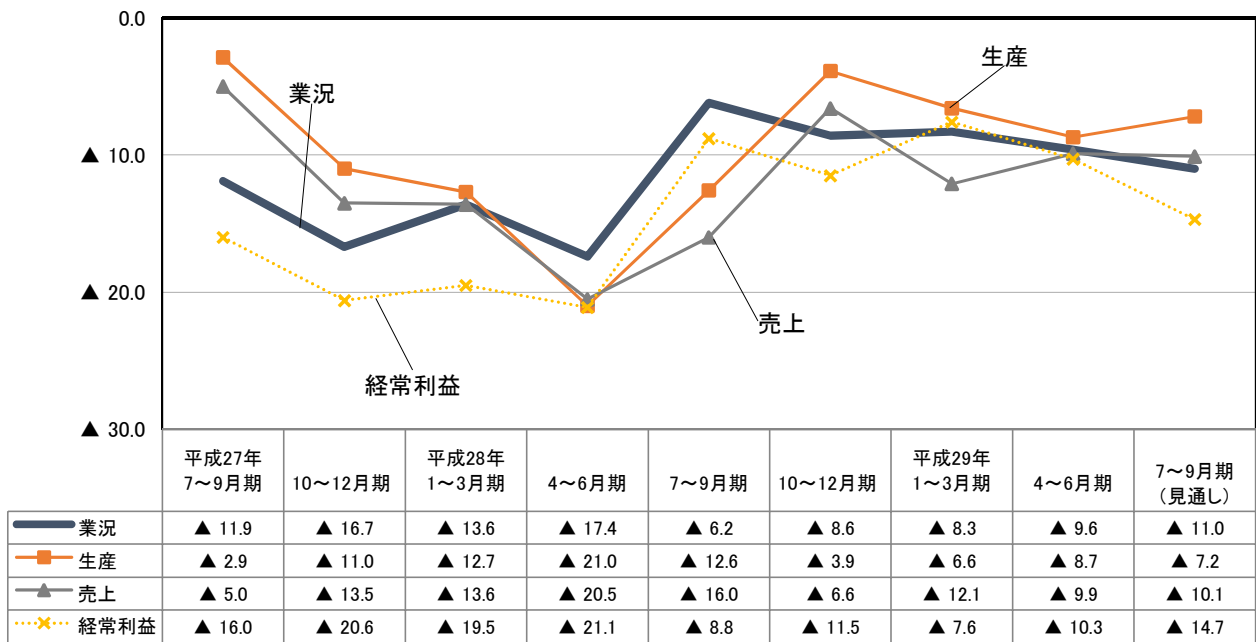
設備投資

設備投資実施企業割合は前期に比べ 14.6 ポイント減の 31.1%と減少した。
来期は、今期に比べ 2.3 ポイント増の 33.4%と増加する見通しである。

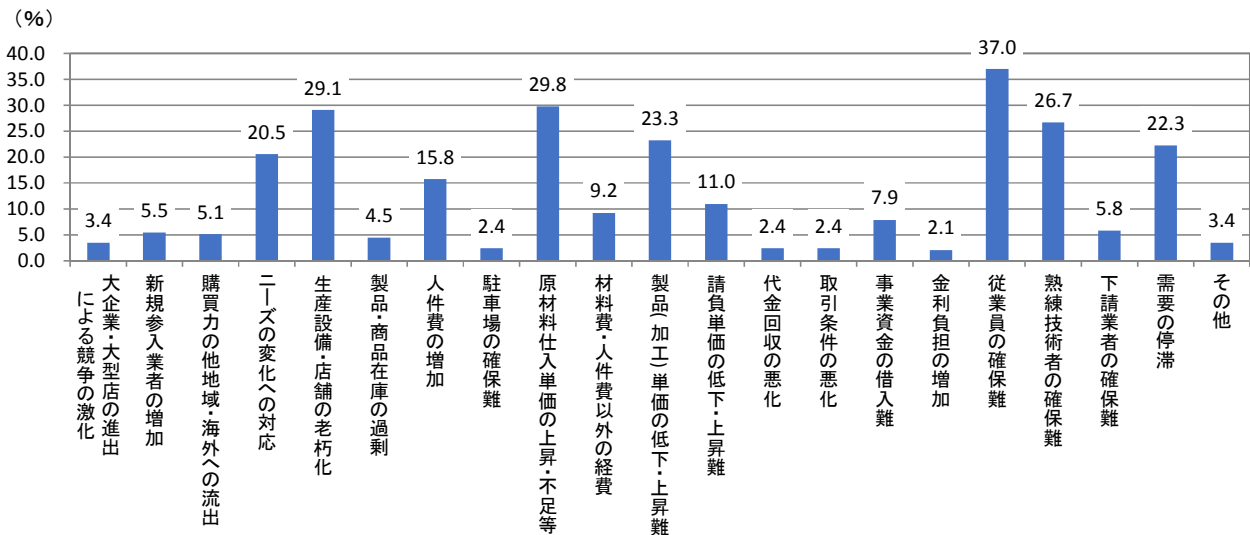
経営上の問題点

経営上の問題点は、1 位が「従業員の確保難」で 37.0%、2 位が「原材料仕入単価の上昇・不足等」で 29.8%、3 位が「生産設備・店舗の老朽化」で 29.1%であった。

生産・売上・経常利益・業況の動き（実績）と来期の見通し



経営上の問題点（複数回答）



建設業



売上・収益の動向と業況判断

業況 DI は前期に比べ 0.4 ポイント増の▲5.4 とマイナス幅が縮小した。売上 DI は 5.7 ポイント減の▲16.0、経常利益 DI は 1.1 ポイント減の▲6.8 と、ともにマイナス幅が拡大した。引合 DI は 6.8 ポイント増の▲21.6 とマイナス幅が縮小した。採算の水準 DI は 13.2 ポイント減の 10.4 とプラス幅が縮小した。

来期は、業況 DI は今期に比べ 11.9 ポイント減の▲17.3 とマイナス幅が拡大する見通しである。売上 DI は 6.5 ポイント増の▲9.5 とマイナス幅が縮小し、経常利益 DI は 9.4 ポイント減の▲16.2 とマイナス幅が拡大する見通しである。引合 DI は増減なく▲21.6 と今期と変わらない見通しである。採算の水準 DI は 7.8 ポイント増の 18.2 とプラス幅が拡大する見通しである。

雇用の水準

雇用の水準 DI は前期に比べ 1.0 ポイント増の▲42.7 とマイナス幅が縮小した。

来期は、今期に比べ 2.6 ポイント減の▲45.3 とマイナス幅が拡大する見通しである。

金融関係

資金繰り DI は前期に比べ 14.2 ポイント増の 4.0 とマイナスからプラスに転じた。長期資金借入難易度 DI は 6.0 ポイント増の 12.0、短期資金借入難易度 DI は 1.7 ポイント増の 15.1 と、ともにプラス幅が拡大した。

来期は、資金繰り DI は今期に比べ 13.3 ポイント減の▲9.3 とプラスからマイナスに転じる見通しである。長期資金借入難易度 DI は今期に比べ 6.6 ポイント減の 5.4、短期資金借入難易度 DI は今期に比べ 4.1 ポイント減の 11.0 と、ともにプラス幅が縮小する見通しである。

設備投資

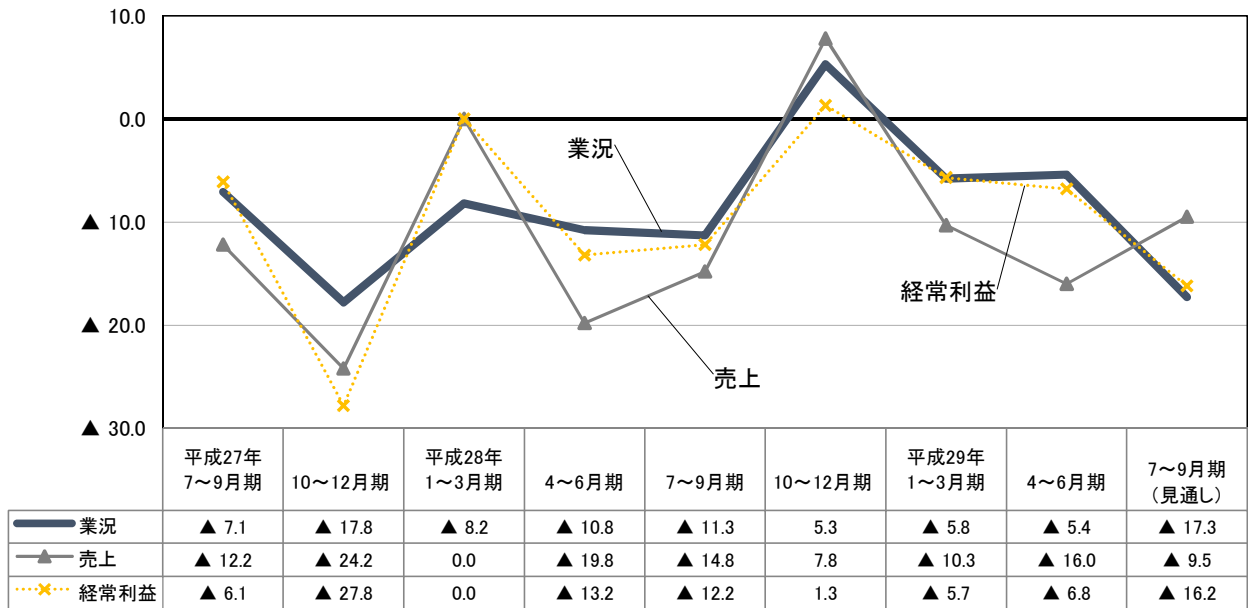
設備投資実施割合は前期に比べ 0.2 ポイント減の 20.8% と減少した。

来期は、今期に比べ 10.3 ポイント増の 31.1% と増加する見通しである。

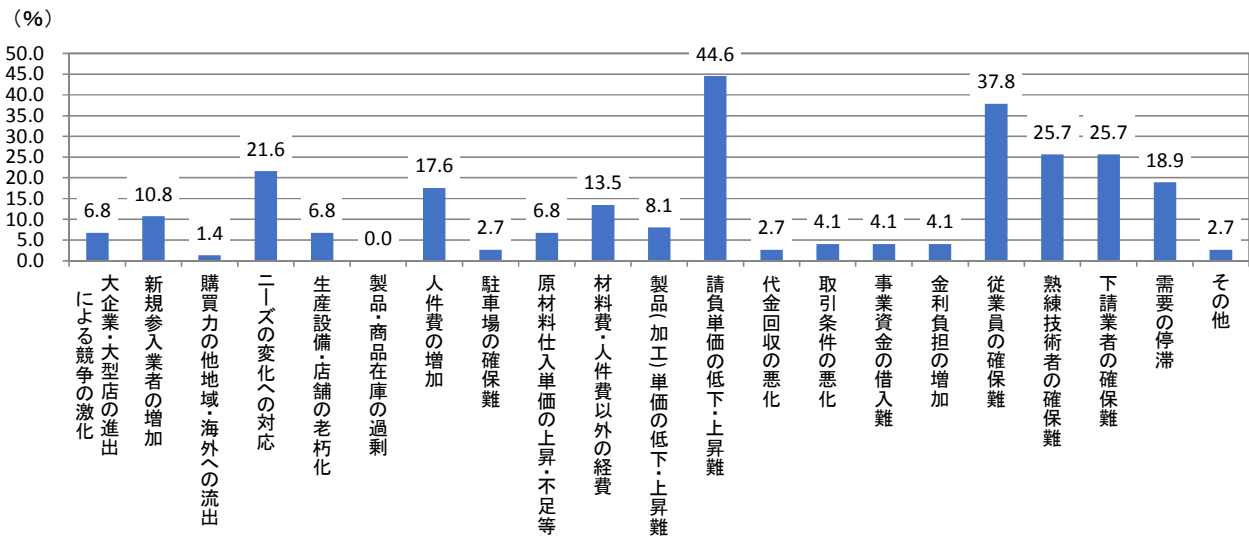
経営上の問題点

経営上の問題点は、1 位が「請負単価の低下・上昇難」で 44.6%、2 位が「従業員の確保難」で 37.8%、3 位が「熟練技術者の確保難」、「下請業者の確保難」で、ともに同率の 25.7% であった。

売上・経常利益・業況の動き（実績）と来期の見通し



経営上の問題点（複数回答）



卸 売 業

<前期>

<今期>

<来期>



売上・収益の動向と業況判断

業況 DI は前期に比べ 1.3 ポイント増の▲12.0 とマイナス幅が縮小した。売上 DI は 3.0 ポイント減の▲11.9、経常利益 DI は 3.1 ポイント減の▲16.7 と、ともにマイナス幅が拡大した。引合 DI は 15.1 ポイント増の▲14.3 とマイナス幅が縮小した。採算の水準 DI は 8.4 ポイント減の 19.1 とプラス幅が縮小した。

来期は、業況 DI は今期に比べ 2.5 ポイント増の▲9.5 とマイナス幅が縮小する見通しである。売上 DI は 9.5 ポイント増の▲2.4、経常利益 DI は 2.4 ポイント増の▲14.3 と、ともにマイナス幅が縮小する見通しである。引合 DI は増減なく▲14.3 と今期と変わらない見通しである。採算の水準 DI は 2.4 ポイント増の 21.5 とプラス幅が拡大する見通しである。

在庫動向

在庫数量 DI は前期に比べ 6.7 ポイント増の 0.0 とマイナス幅が縮小した。

来期は、今期に比べ 15.0 ポイント減の▲15.0 とマイナス幅が拡大する見通しである。

雇用の水準

雇用の水準 DI は前期に比べ 0.9 ポイント減の▲22.5 とマイナス幅が拡大した。

来期は、今期に比べ 2.5 ポイント減の▲25.0 とマイナス幅が拡大する見通しである。

金融関係

資金繰り DI は前期に比べ 11.2 ポイント増の 7.1 とマイナスからプラスに転じた。長期資金借入難易度 DI は 2.6 ポイント増の 20.0 とプラス幅が拡大し、短期資金借入難易度 DI は 0.3 ポイント減の 21.9 とプラス幅が縮小した。

来期は、資金繰り DI は今期に比べ 14.5 ポイント減の▲7.4 とプラスからマイナスに転じる見通しである。長期資金借入難易度 DI は 2.5 ポイント減の 17.5、短期資金借入難易度 DI は 7.3 ポイント減の 14.6 とプラス幅が縮小する見通しである。

設備投資

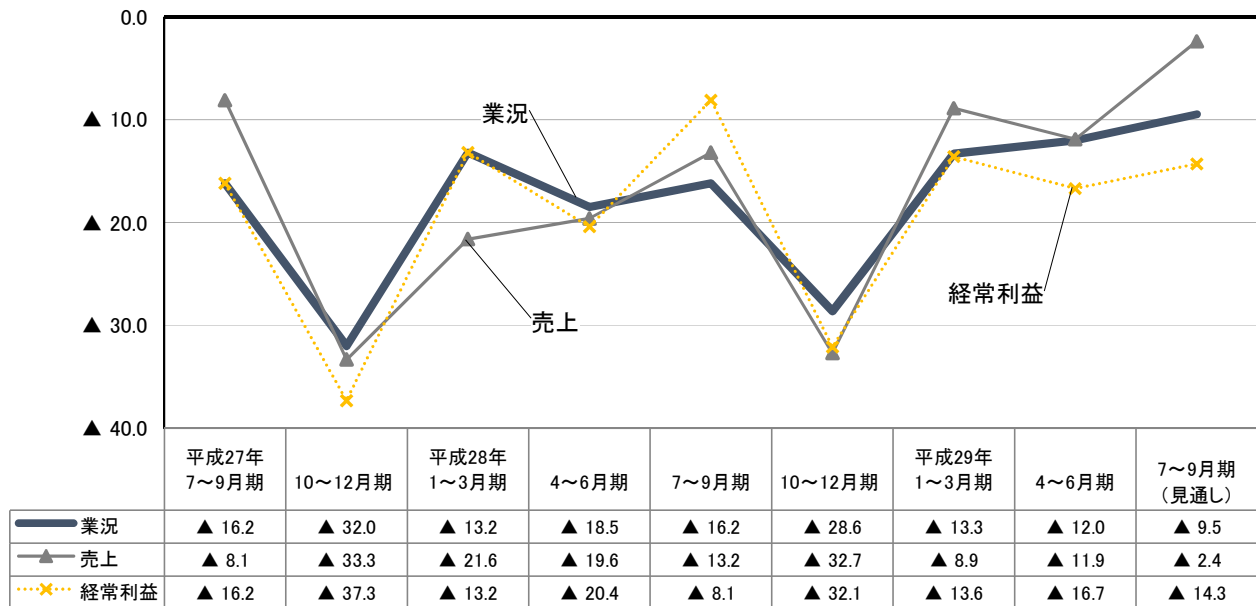
設備投資実施割合は前期に比べ 6.6 ポイント増の 26.2%と増加した。

来期は、今期に比べ 7.9 ポイント増の 34.1%と増加する見通しである。

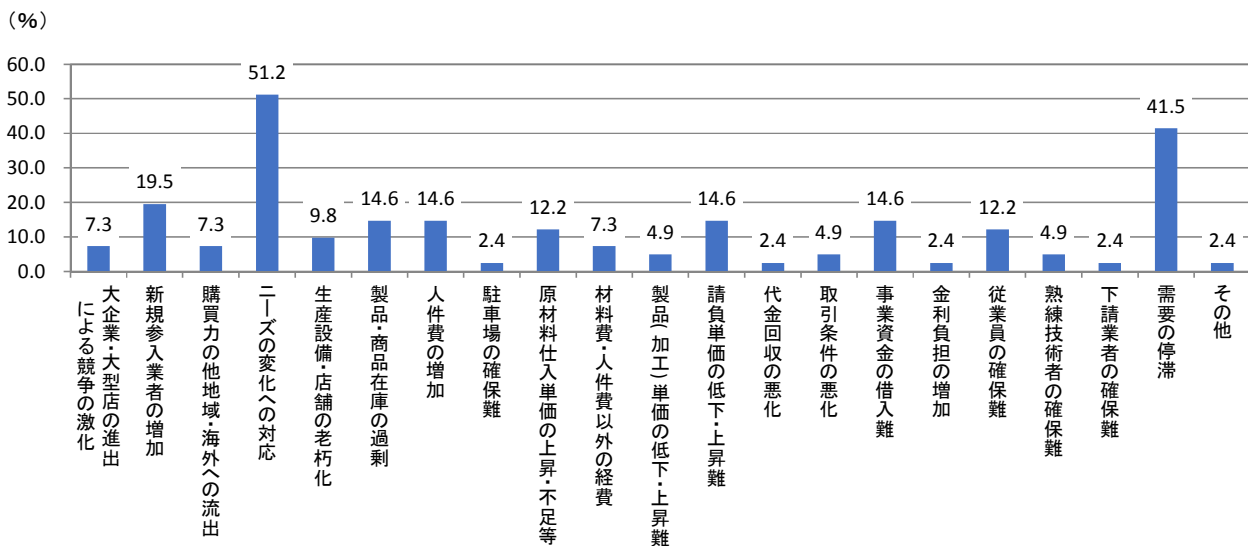
経営上の問題点

経営上の問題点は、1 位が「ニーズの変化への対応」で 51.2%、2 位が「需要の停滞」で 41.5%、3 位が「新規参入業者の増加」で 19.5%であった。

売上・経常利益・業況の動き（実績）と来期の見通し



経営上の問題点（複数回答）



小 売 業



売上・収益の動向と業況判断

業況DIは前期に比べ5.6ポイント増の▲24.3とマイナス幅が縮小した。売上DIは前期に比べ15.3ポイント減の▲24.3、経常利益DIは前期に比べ8.5ポイント減の▲28.2と、ともにマイナス幅が拡大した。引合DIは13.9ポイント減の▲25.0とマイナス幅が縮小した。採算の水準DIは前期に比べ3.6ポイント減の10.0とプラス幅が縮小した。

来期は、業況DIは今期に比べ5.4ポイント増の▲18.9とマイナス幅が縮小する見通しである。売上DIは3.3ポイント増の▲21.0、経常利益DIは今期に比べ5.1ポイント増の▲23.1と、ともにマイナス幅が縮小する見通しである。採算の水準DIは8.4ポイント増の18.4とプラス幅が拡大し、引合DIは3.2ポイント減の▲28.2とマイナス幅が拡大する見通しである。

在庫動向

在庫数量DIは前期に比べ0.2ポイント増の▲13.5とマイナス幅が縮小した。

来期は、今期に比べ5.4ポイント減の▲18.9とマイナス幅が拡大する見通しである。

雇用の水準

雇用の水準DIは前期に比べ9.8ポイント増の▲35.0とマイナス幅が縮小した。

来期は、増減なく▲35.0と今期と変わらない見通しである。

金融関係

資金繰りDIは前期に比べ2.8ポイント減の▲7.5とマイナス幅が拡大した。長期資金借入難易度DIは4.1ポイント減の2.7とプラス幅が縮小し、短期資金借入難易度DIは6.0ポイント増の11.4とプラス幅が拡大した。

来期は、資金繰りDIは今期に比べ10.0ポイント増の2.5とマイナスからプラスに転じる見通しである。長期資金借入難易度DIは2.7ポイント減の0.0とマイナス幅が拡大し、短期資金借入難易度DIは2.8ポイント減の8.6とプラス幅が縮小する見通しである。

設備投資

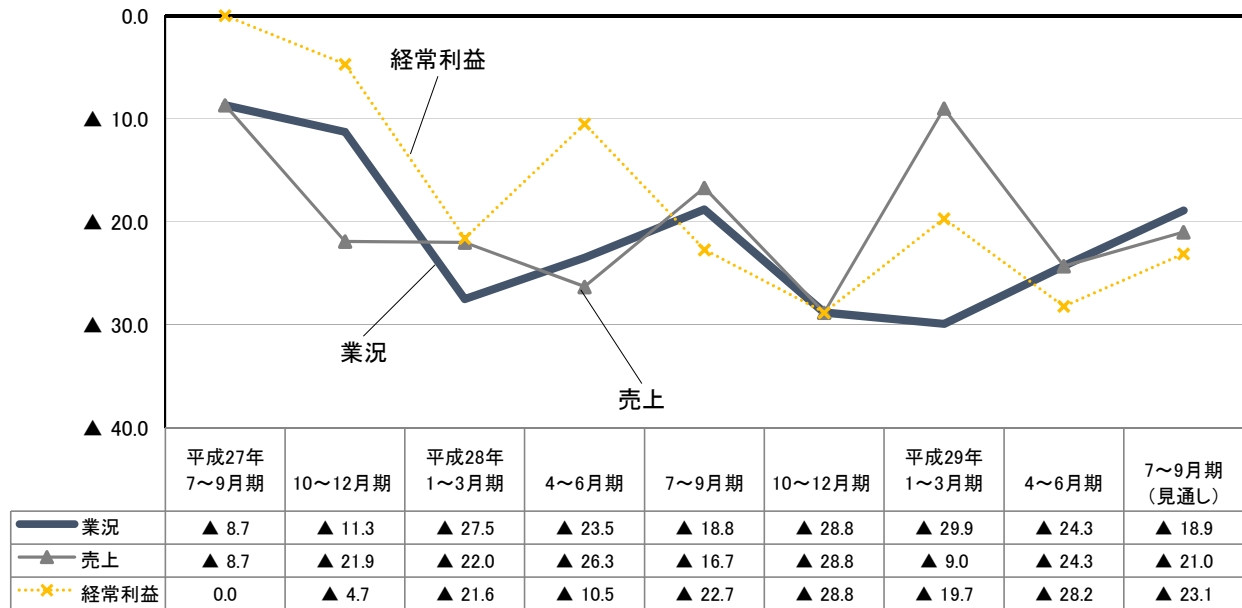
設備投資実施割合は前期に比べ20.8ポイント減の12.5%と減少した。

来期は、今期に比べ7.5ポイント増の20.0%と増加する見通しである。

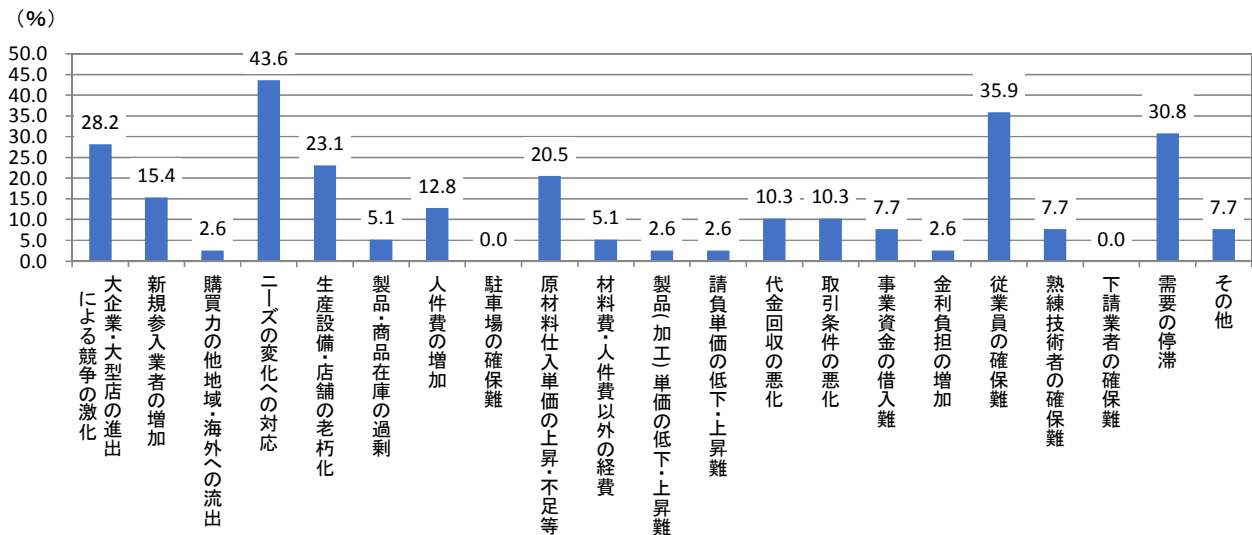
経営上の問題点

経営上の問題点は、1位が「ニーズの変化への対応」で43.6%、2位が「従業員の確保難」で35.9%、3位が「需要の停滞」で30.8%であった。

売上・経常利益・業況の動き（実績）と来期の見通し



経営上の問題点（複数回答）



<前期>

<今期>

<来期>

サービス業



売上・収益の動向と業況判断

業況 DI は前期に比べ 5.1 ポイント増の 0.8 とマイナスからプラスに転じた。売上 DI は 16.5 ポイント増の 9.1 とマイナスからプラスに転じ、経常利益 DI は 6.5 ポイント増の▲2.8、引合 DI は 2.1 ポイント増の▲1.5 と、ともにマイナス幅が縮小した。採算の水準 DI は 1.6 ポイント減の 28.8 とプラス幅が縮小した。

来期は、業況 DI は今期に比べ 5.1 ポイント減の▲4.3 とプラスからマイナスに転じる見通しである。売上 DI は 9.8 ポイント減の▲0.7 とプラスからマイナスに転じ、経常利益 DI は 5.8 ポイント減の▲8.6、引合 DI は 4.6 ポイント減の▲6.1 と、ともにマイナス幅が拡大する見通しである。採算の水準 DI は 5.0 ポイント減の 23.8 とプラス幅が縮小する見通しである。

雇用の水準

雇用の水準 DI は前期に比べ 6.3 ポイント増の▲32.9 とマイナス幅が縮小した。

来期は、今期に比べ 3.0 ポイント減の▲35.9 とマイナス幅が拡大する見通しである。

金融関係

資金繰り DI は前期に比べ 5.8 ポイント減の▲4.1 とプラスからマイナスに転じた。長期資金借入難易度 DI は前期に比べ 7.8 ポイント減の 4.4、短期資金借入難易度 DI は前期に比べ 7.0 ポイント減の 9.2 と、ともにプラス幅が縮小した。

来期は、資金繰り DI は今期に比べ増減なく▲4.1 と今期と変わらない見通しである。長期資金借入難易度 DI は 2.9 ポイント減の 1.5、短期資金借入難易度 DI は 1.5 ポイント減の 7.7 と、ともにプラス幅が縮小する見通しである。

設備投資

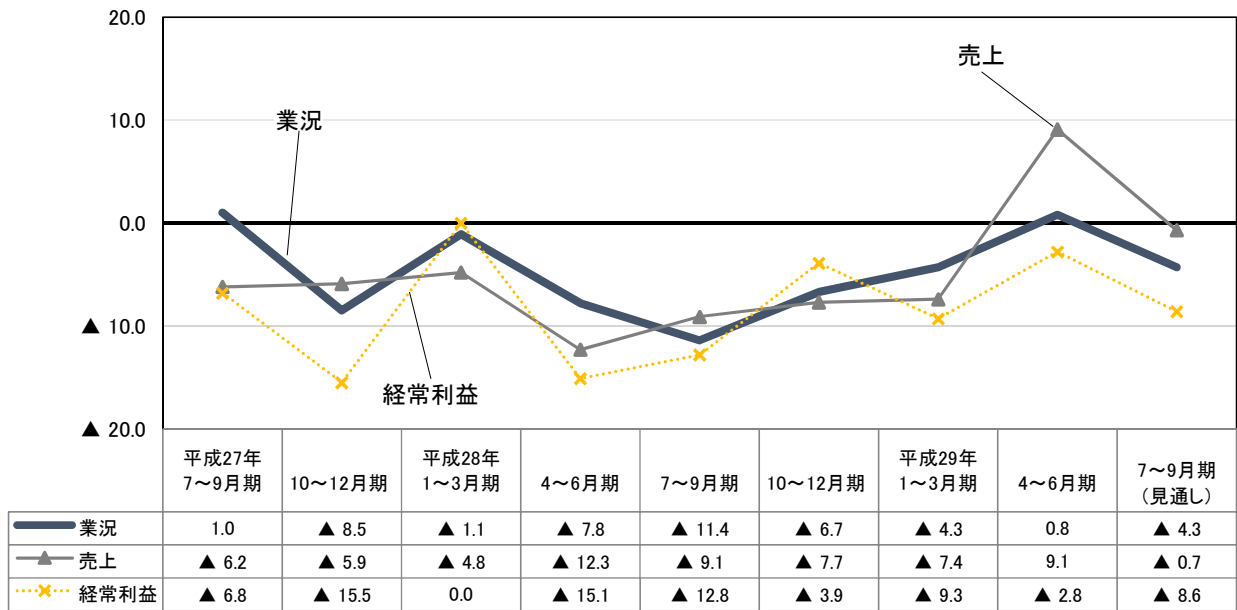
設備投資実施割合は前期に比べ 12.0 ポイント減の 17.6%と減少した。

来期は、今期に比べ 2.5 ポイント増の 20.1%と増加する見通しである。

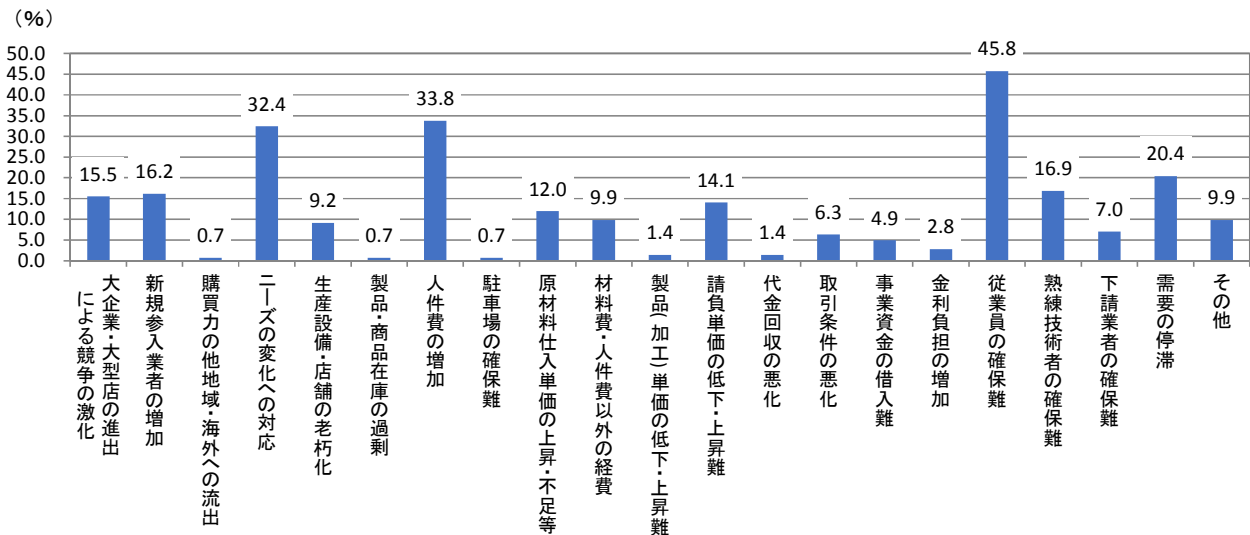
経営上の問題点

経営上の問題点は、1 位が「従業員の確保難」で 45.8%、2 位が「人件費の増加」で 33.8%、3 位が「ニーズの変化への対応」で 32.4%であった。

売上・経常利益・業況の動き（実績）と来期の見通し



経営上の問題点（複数回答）



大津地域



売上・収益の動向と業況判断

業況DIは前期に比べ9.2ポイント減の▲5.3とプラスからマイナスに転じた。生産DIは前期に比べ20.3ポイント減の2.8とプラス幅が縮小した。売上DIは前期に比べ9.0ポイント減の▲3.2、経常利益DIは前期に比べ21.4ポイント減の▲12.6と、ともにプラスからマイナスに転じた。

来期は、業況DIは今期に比べ7.3ポイント減の▲12.6とマイナス幅が拡大する見通しである。生産DIは今期に比べ2.7ポイント増の5.5とプラス幅が拡大する見通しである。売上DIは今期に比べ2.1ポイント減の▲5.3、経常利益DIは今期に比べ2.3ポイント減の▲14.9と、ともにマイナス幅が拡大する見通しである。

在庫動向

在庫数量DIは増減なく6.7と前期と変わらなかった。

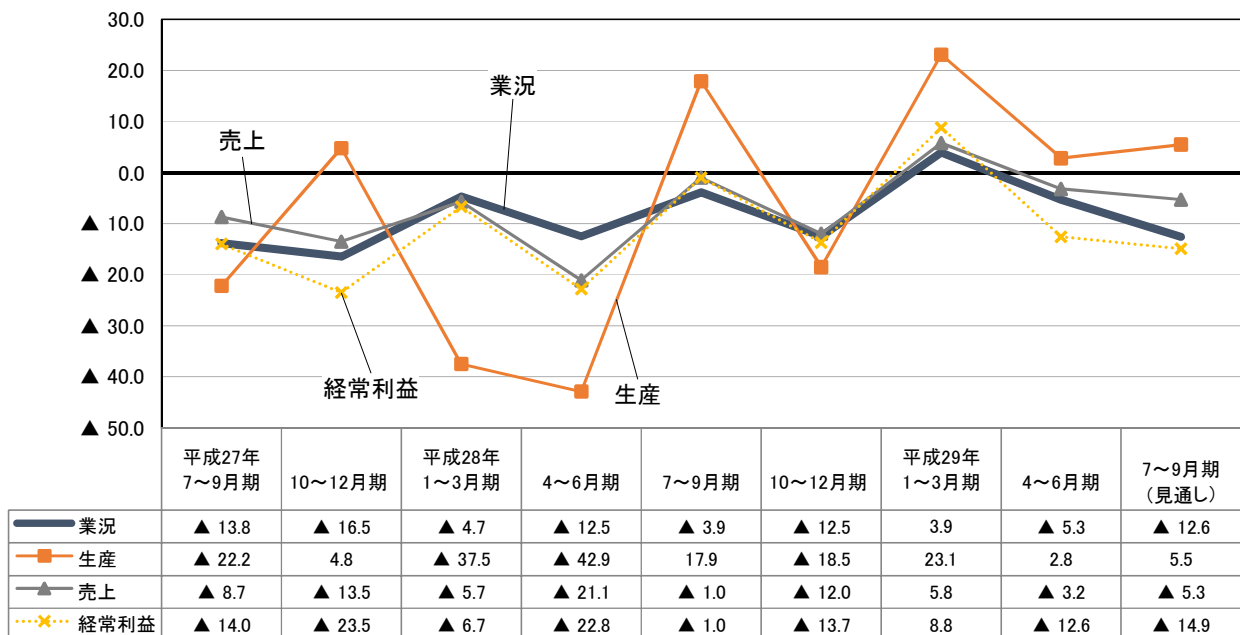
来期は、今期に比べ3.3ポイント減の3.4とプラス幅が縮小する見通しである。

雇用の水準

雇用の水準DIは前期に比べ5.8ポイント減の▲37.0とマイナス幅が拡大した。

来期は、今期に比べ5.7ポイント減の▲42.7とマイナス幅が拡大する見通しである。

生産・売上・経常利益・業況の動き（実績）と来期の見通し



【業況の判断理由（企業の回答）】

<p><製造業></p> <ul style="list-style-type: none">・7～9月は例年閑散期に入るため、今後、売上額、利益等、減少及び悪化が見込まれる。（食料品製造業）・運送費の高騰が今後の売上、経常利益に影響を与える見通しである。（プラスチック製品製造業）・I o Tが追い風となり、前期より業況は回復しつつある。（電気機械器具製造業）・全部門ともに受注面で底堅い状況が続いている。（ポンプ・圧縮機器製造業）
<p><建設業></p> <ul style="list-style-type: none">・手持ちの受注工事が今秋まで持続する見通しのため、このまま好調を維持する見込み。（総合工事業）・土木から建築主体にシフトしたことで、収益面のみならず、売上も改善している。（総合工事業）・完工高が増えたことで業績も改善。公共工事増に期待。（総合工事業）
<p><卸売業></p> <ul style="list-style-type: none">・太陽光発電設備や住設機器が堅調に推移している。（電気機械器具卸売業）・ニッチ製品の提供に注力することで、安定した収益確保が見込まれ、業況も好転。（電気機械器具卸売業）・再生プラスチックのトータルプロデュースに注力。また、営業拠点新設による業況伸展を期待。（プラスチック卸売業）
<p><小売業></p> <ul style="list-style-type: none">・県下全域に営業所網を構築している他、新車効果もあって、販売は好調に推移している。（機械器具小売業）・若者の車離れもあって、販売自体は伸び悩み。（機械器具小売業）・石油単価下落と販売量の伸び悩みから、見通しは明るくない。（その他の小売業）・積極出店が奏功しており、販売増を期待している。（食肉小売業）・近年調剤薬局事業が順調で業容は続伸している他、シニア向事業により事業の幅は拡大。（その他の小売業）
<p><サービス業></p> <ul style="list-style-type: none">・デイサービス事業の稼働上昇により、業況は好転している。一方で、平成30年4月の介護報酬改定により、サービス単価の低下がほぼ確実視されており、見通しは厳しい。（老人福祉・介護業）・オリジナル住宅を販売しているが、販売ペースは減速している他、経費増もあって、減益傾向。（不動産業）・事業によって好・不調がみられ自動車関連は好調であるが、その他繊維関係などは低迷している。（その他の事業サービス業）

南部地域



売上・収益の動向と業況判断

業況 DI は前期に比べ 3.1 ポイント増の 0.0 とマイナス幅が縮小した。生産 DI は 12.4 ポイント減の 1.2 とプラス幅が縮小し、売上 DI は 0.1 ポイント増の 2.4 とプラス幅が拡大し、経常利益 DI は 3.5 ポイント減の ▲4.3 とマイナス幅が拡大した。

来期は、業況 DI は今期に比べ 2.5 ポイント減の ▲2.5 とマイナス幅が拡大する見通しである。生産 DI は増減なく 1.2 と今期と変わらず、売上 DI は 4.2 ポイント減の ▲1.8 とプラスからマイナスに転じ、経常利益 DI は 6.1 ポイント減の ▲10.4 とマイナス幅が拡大する見通しである。

在庫動向

在庫数量 DI は前期に比べ 6.8 ポイント増の ▲6.5 とマイナス幅が縮小した。

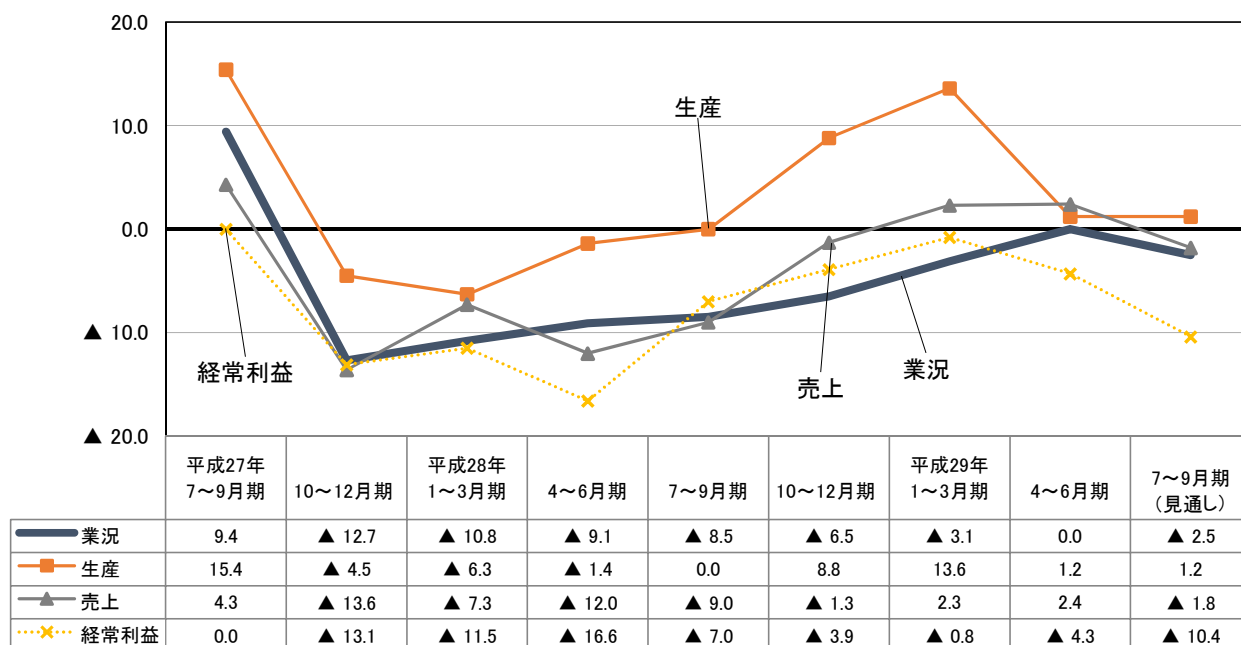
来期は、今期に比べ 2.9 ポイント減の ▲9.4 とマイナス幅が拡大する見通しである。

雇用の水準

雇用の水準 DI は前期に比べ 4.4 ポイント増の ▲35.2 とマイナス幅が縮小した。

来期は、増減なく ▲35.2 と今期と変わらない見通しである。

生産・売上・経常利益・業況の動き（実績）と来期の見通し



【業況の判断理由（企業の回答）】

<p><製造業></p> <ul style="list-style-type: none">・引合が注文に至らないケースが多く、業界が全般的に低迷傾向にある。(家具製造業、仏具製造業)・インターネットの普及により低価格競争が激化している。(印刷業)・業況の改善はみられるが、ユーザ各社共々コストダウンの要望が多い中、採算は悪化傾向にある。(非鉄金属製造業)・塩ビ管製品の値上げ前で仮需要反動減があるが、合成木材好調で維持の見込みである。(プラスチック製品製造業)・昨年度の影響から現状は厳しいが、徐々に好転の見込み。(業務用機械器具製造業)
<p><建設業></p> <ul style="list-style-type: none">・住宅市場低迷や主力営業社員の退職などマイナス要因が相次ぎ、低調に推移している。(総合工事業)・従業員の確保難、ニーズの変化への対応などにより業況が低迷しており、人手がないため引合があっても受けられない状況も発生している。(設備工事業)・官民に豊富な実績を形成してきたことで、受注環境面は順調。(総合工事業)
<p><卸売業></p> <ul style="list-style-type: none">・売上が減少したが、仕入も減少したため減益にはならなかった。今後も同様の動きとなる見通しである。(子供服販売卸売業)・商品全般に対する新規開拓や深耕営業の他、関連会社を新設し、営業地盤は拡大している。(建築材料、鉱物・金属材料等卸売業)・高速道路の利用者数減少もあって、業容は伸び悩み。(飲食料品卸売業)
<p><小売業></p> <ul style="list-style-type: none">・新事業の特性により数年赤字が続いているが、今後は黒字を見込んでいる。(無店舗小売業)・客単価上昇効果から増収増益となっている。(飲食料品小売業)・新車効果、ヒット車に恵まれて、販売は好調である。(機械器具小売業)・積極的な新規出店を推進、特に大手ショッピングセンター内に出店した効果で、業容は拡大基調。(飲食料品小売業)
<p><サービス業></p> <ul style="list-style-type: none">・一部テナントの入店に対する売上高が増加している。(不動産賃貸業)・官庁の発注量によって左右されやすいため、業況をとらえにくいだが、概ね変化はない。(建築設計業)・客数が減少しており、売上・採算が悪化している。(宿泊業)・少しずつ好転しているとする業者がある一方で、介護制度の変更により良くない影響を受けているとする業者も見受けられる。(社会保険・社会福祉・介護事業)・大企業相手に関わらず競争が激化しており、営業や社員の資格取得にも力を入れている。(廃棄物処理業)

甲賀地域



売上・収益の動向と業況判断

業況 DI は前期に比べ 22.8 ポイント増の▲4.4 とマイナス幅が縮小した。生産 DI は 11.2 ポイント増の▲21.5、売上 DI は 20.1 ポイント増の▲5.4、経常利益 DI は 20.3 ポイント増の▲9.8 と、いずれもマイナス幅が縮小した。

来期は、業況 DI は今期に比べ 6.6 ポイント減の▲11.0 とマイナス幅が拡大する見通しである。生産 DI は 1.9 ポイント増の▲19.6 とマイナス幅が縮小し、売上 DI は 9.8 ポイント減の▲15.2、経常利益 DI は 11.9 ポイント減の▲21.7 と、ともにマイナス幅が拡大する見通しである。

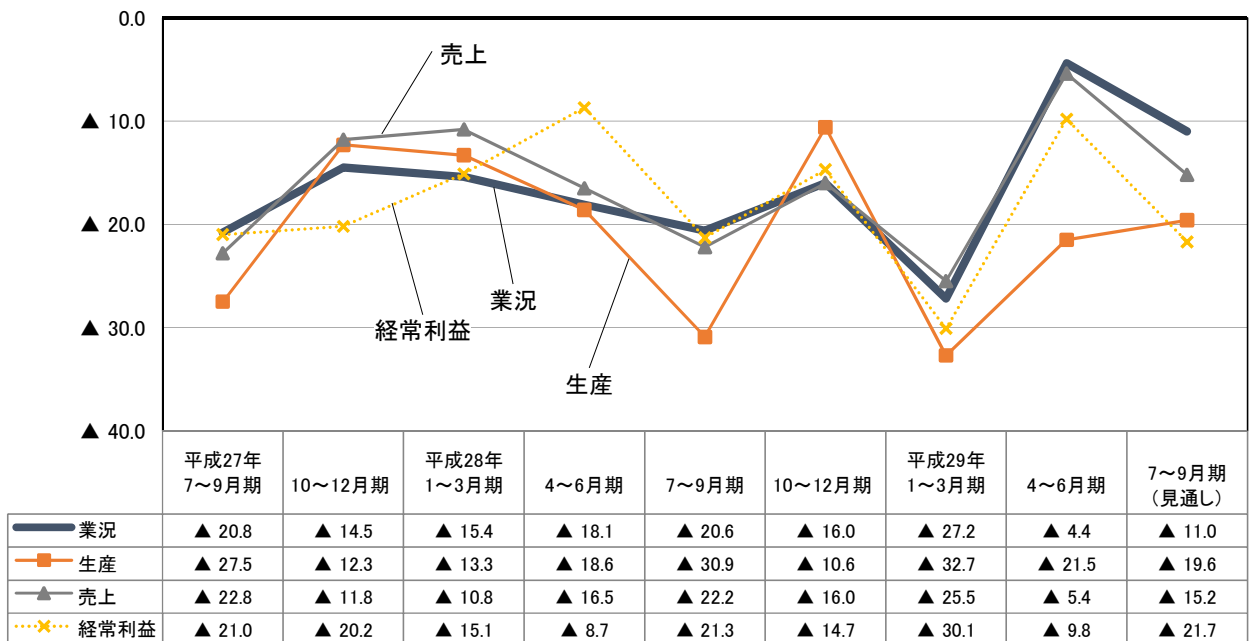
在庫動向

在庫数量 DI は前期に比べ 5.5 ポイント減の▲14.1 とマイナス幅が拡大した。
来期は、今期に比べ 1.8 ポイント減の▲15.9 とマイナス幅が拡大する見通しである。

雇用の水準

雇用の水準 DI は前期に比べ 1.5 ポイント減の▲28.3 とマイナス幅が拡大した。
来期は、今期に比べ 1.1 ポイント減の▲29.4 とマイナス幅が拡大する見通しである。

生産・売上・経常利益・業況の動き（実績）と来期の見通し



【業況の判断理由（企業の回答）】

<p><製造業></p> <ul style="list-style-type: none">・近年は海外向け需要が堅調で増収基調にある。（非鉄金属製造業）・携帯電話市場の飽和化による競争激化にあり、収益は悪化している。（電子部品・デバイス・電子回路製造業）・ジェネリック医薬品、抗がん剤を柱に近年業績推移は着実に伸展している。（化学工業）・受託生産の好調が寄与、また既往の設備投資が奏功し高付加価値化により、業況は好転。（化学工業）
<p><建設業></p> <ul style="list-style-type: none">・大手、準大手ゼネコンは好調な業績となっている。中小ゼネコンは価格競争の激化による利益確保難で逆に悪化する企業が多い。（総合工事業）・21年期を底に、地域密着経営が効果を発揮、受注は回復傾向にある。（総合工事業）・社寺建築を得意としてきたが、施工評価もあって、近年は民間の施工実績を伸ばしている。（総合工事業）
<p><卸売業></p> <ul style="list-style-type: none">・海外への販路拡大など積極展開したことで、業容は拡大基調にある。（繊維・衣服等卸売業）・近年はネット販売が順調に推移しているため、業績面に寄与している。（機械器具卸売業）・大手資本系列となったことで、効率化推進により採算性は維持している。（建築材料・鉱物・金属材料卸売業）
<p><小売業></p> <ul style="list-style-type: none">・大手資本系列に入り、効率的な店舗展開が進められており、収益面は大きく回復した。（その他の小売業）・大手グループとの競争は激化しており、厳しい状況が続いているものの、差別化を図って生き残りを目指す。（その他の小売業）・外車を中心に取り扱い、ヒット車に恵まれて、業績は改善傾向にある。（機械器具小売業）
<p><サービス業></p> <ul style="list-style-type: none">・新しく介護老人保健施設を開いた事により減益となったが、今後の業績好転を期待している。（医療業）・地域に密着したサービスを展開、経営強化計画に取り組んでいる。（協同組織金融業）・滋賀県下進出メーカーの工場関連に派遣実績があり、特に外国人労働者の派遣が好調。（その他の事業サービス業）・ニッチな受託業務を主体としているため、高い技術力を活かすことで、安定したリピートが期待できる。（医療業）

東近江地域

<前期> <今期> <来期>



売上・収益の動向と業況判断

業況 DI は前期に比べ 3.6 ポイント増の▲4.5 とマイナス幅が縮小した。生産 DI は 11.1 ポイント減の▲11.1、売上 DI は 2.6 ポイント減の▲9.0 と、ともにマイナス幅が拡大した。経常利益 DI は 7.2 ポイント増の 2.7 とマイナスからプラスに転じた。

来期は、業況 DI は今期に比べ 0.1 ポイント減の▲4.6 と若干ながらマイナス幅が拡大する見通しである。生産 DI は 12.8 ポイント増の 1.7、売上 DI は 12.8 ポイント増の 3.8 と、ともにマイナスからプラスに転じ、経常利益 DI は 3.6 ポイント減の▲0.9 とプラスからマイナスに転じる見通しである。

在庫動向

在庫数量 DI は前期に比べ 7.9 ポイント増の▲2.4 とマイナス幅が縮小した。

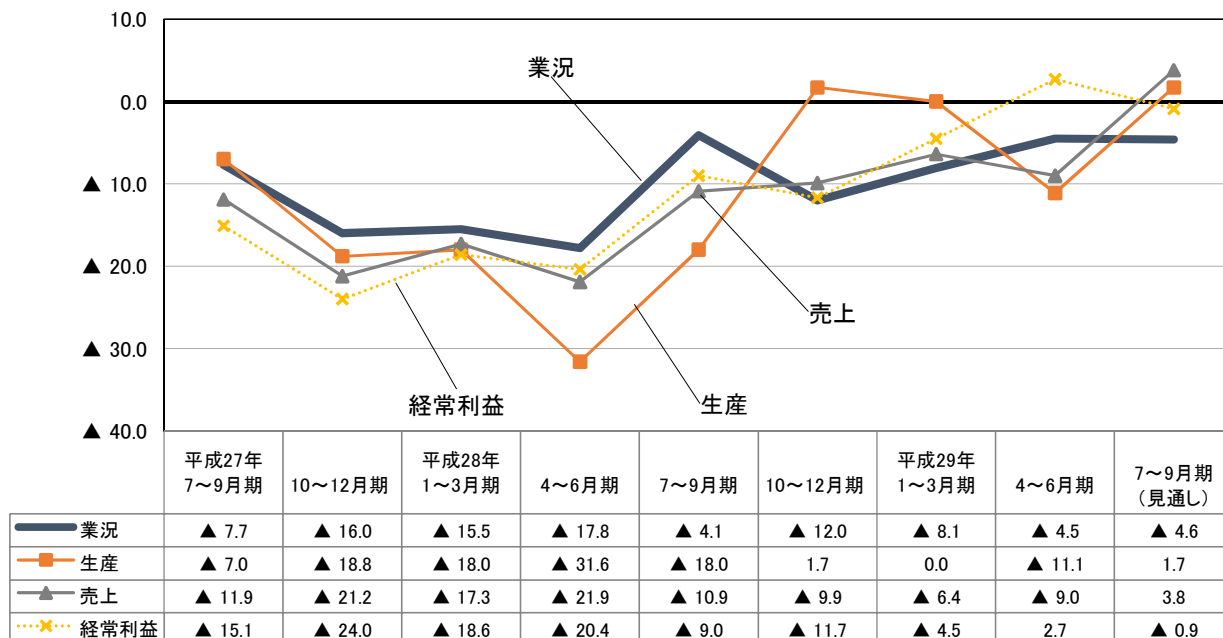
来期は、今期に比べ 2.5 ポイント減の▲4.9 とマイナス幅が拡大する見通しである。

雇用の水準

雇用の水準 DI は前期に比べ 8.7 ポイント増の▲30.6 とマイナス幅が縮小した。

来期は、今期に比べ 6.6 ポイント減の▲37.2 とマイナス幅が拡大する見通しである。

生産・売上・経常利益・業況の動き（実績）と来期の見通し



【業況の判断理由（企業の回答）】

<p><製造業></p> <ul style="list-style-type: none">・新店舗の開業など積極的な生産・売上の増加に努めているが人手不足に不安がある。（食料品製造業）・人手の確保難および百貨店等店頭での販売低調の影響を受け、生産受注が落ち込んでいる。（寝具製造業）・高齢化による欠員の補充が出来ず、生産、受注意欲の低下にもつながっている。（木材・木製品製造業）・プレハブ住宅メーカーからの請負が例年の同時期よりも低下している。（建具製造業）
<p><建設業></p> <ul style="list-style-type: none">・財務のスリム化、組織の活性化にも注力して、受注減でも収益確保が出来る体質にしている。（総合工事業）・戸建新築工事の受注増があつて、業績は回復基調にある。（総合工事業）・太陽光発電関連の工事も手掛けることで、受注確保に注力している。（職別工事業）・箱モノ中心の受注から近年は太陽光関係が好調に推移していたが、案件も一巡した。（総合工事業）
<p><卸売業></p> <ul style="list-style-type: none">・製品在庫購入のため、一時的な悪化が予想される。（生活日用品卸売業）・戸建住宅受注に少し明るさが見られるが、需要の停滞や価格下落は否めず、業況は低迷している。（建築材料・鉱物・金属材料等卸売業）・原油価格の動きなどで売上変動することが避けられないが、コストダウンで収益確保を見込む。（建築材料・鉱物・金属材料卸売業）
<p><小売業></p> <ul style="list-style-type: none">・顧客および社員の高齢化のため、数年で廃業を検討している。（医薬品配置販売業）・現状維持となっている。（LPガス販売業）・ネット通販へ顧客が流出している。（楽器小売業）・厳しい営業環境に置かれているものの、事業の再構築に取り組んでいる。（その他の小売業）
<p><サービス業></p> <ul style="list-style-type: none">・大手資本系列として、幅広く事業を手掛けることで、安定した収益確保が期待される。（倉庫業）・季節変動があり、夏季は売上・利益共に低調となる見込みである。（飲食店）・人件費の増加、新規参入業者の増加などにより、現在の業況は好調であるが、今後の悪化が懸念される。（社会保険・社会福祉・介護事業）・一般外来の他、温泉を利用した療養環境も整い充実したサービスを提供して、収益増を見込む。（医療業）・競争激化で利用者数が減少しており、業績は厳しい。（社会保険・社会福祉・介護事業）

湖東地域



売上・収益の動向と業況判断

業況 DI は前期に比べ 22.8 ポイント減の▲31.6 とマイナス幅が拡大した。生産 DI は 18.6 ポイント減の▲34.8、売上 DI は 16.8 ポイント減の▲36.8、経常利益 DI は 24.4 ポイント減の▲33.3 といずれもマイナス幅が拡大した。

来期は、業況 DI は今期に比べ 3.5 ポイント減の▲35.1 とマイナス幅が拡大する見通しである。生産 DI は 4.3 ポイント増の▲30.5、売上 DI は 10.5 ポイント増の▲26.3 と、ともにマイナス幅が縮小し、経常利益 DI は 5.3 ポイント減の▲38.6 とマイナス幅が拡大する見通しである。

在庫動向

在庫数量 DI は前期に比べ 7.6 ポイント減の▲17.9 とマイナス幅が拡大した。

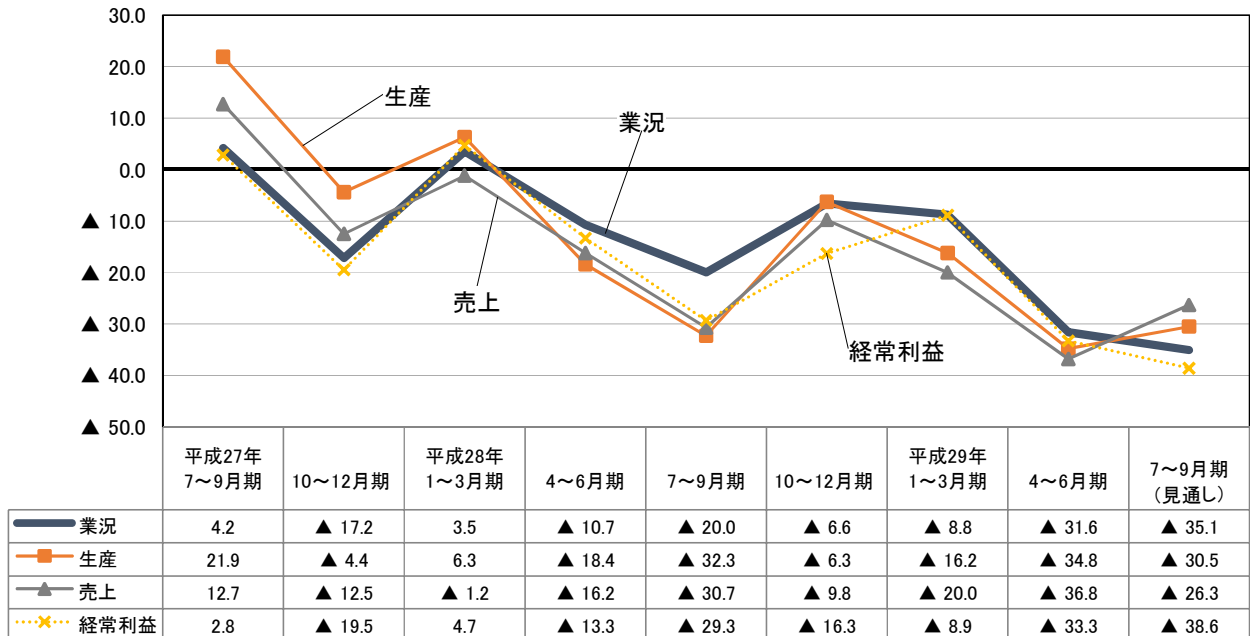
来期は、今期に比べ 10.3 ポイント減の▲28.2 とマイナス幅が拡大する見通しである。

雇用の水準

雇用の水準 DI は前期に比べ 13.8 ポイント増の▲36.2 とマイナス幅が縮小した。

来期は、今期に比べ 8.1 ポイント増の▲28.1 とマイナス幅が縮小する見通しである。

生産・売上・経常利益・業況の動き（実績）と来期の見通し



【業況の判断理由（企業の回答）】

<p><製造業></p> <ul style="list-style-type: none">・従業員の高齢化が進み、後継者の確保難が課題となっている。（繊維工業）・造船業の景気悪化の影響を受け売上高が減少傾向となっているが、改善に努め、採算は大きく変動はしていない。（はん用機械器具製造業）・好調ではあるものの、安定してはいない。（電気機械器具製造業）・中国やアジア新興国での需要減少や円高推移の影響を受けている。（はん用機械器具製造業）
<p><建設業></p> <ul style="list-style-type: none">・仕事量は増加しているものの、専門性の高い従業員を確保することが難しい。（総合工事業）・近年は主力先からの受注が伸び悩んでいる状況にある。（設備工事業）・入札の結果に左右されるため見通しが立てづらい。（職別工事業）
<p><卸売業></p> <ul style="list-style-type: none">・売上ほぼ横ばいながら、高価格帯が好調に推移して利益面に寄与している。（飲食料品卸売業）・積極的なM&A戦略に伴う事業の多角化から、近時業容は拡大傾向にある。（機械器具卸売業）・大手から地場中小まで幅広く販売ルートを開拓することで、業況面も上向いている。（機械器具卸売業）・（その他の卸売業）
<p><小売業></p> <ul style="list-style-type: none">・営業エリアを拡大させることで、過去最高売上高を更新した。（飲食料品小売業）・近時ではインターネット販売に注力していることが奏功している。（その他の小売業）・小売業の他、近時では飲食業にも注力して、積極出店効果を期待している。（飲食料品小売業）
<p><サービス業></p> <ul style="list-style-type: none">・国体、S I C（スマートインターチェンジ）等による特需も見込めるが、大手参入による地場企業への影響に懸念がある。（機械等修理業）・観光客の減少の影響はあるが、営業部門の強化により僅かながら回復に向かっている。（その他の事業サービス業）・消費不振の影響等から近時業況は伸び悩み。（娯楽業）・大手外食チェーンのF C運営を主力に展開、出店効果などもあって近年増収基調にある。（飲食店）

湖北地域



売上・収益の動向と業況判断

業況 DI は前期に比べ 7.2 ポイント減の▲19.6 とマイナス幅が拡大した。生産 DI は 7.5 ポイント増の 0.0、売上 DI は 10.8 ポイント増の▲11.7、経常利益 DI は 0.7 ポイント増の▲21.5 といずれもマイナス幅が縮小した。

来期は、業況 DI は今期に比べ 2.4 ポイント減の▲22.0 とマイナス幅が拡大する見通しである。生産 DI は 12.5 ポイント減の▲12.5、売上 DI は 10.7 ポイント減の▲22.4 と、ともにマイナス幅が拡大し、経常利益 DI は 4.2 ポイント増の▲17.3 とマイナス幅が縮小する見通しである。

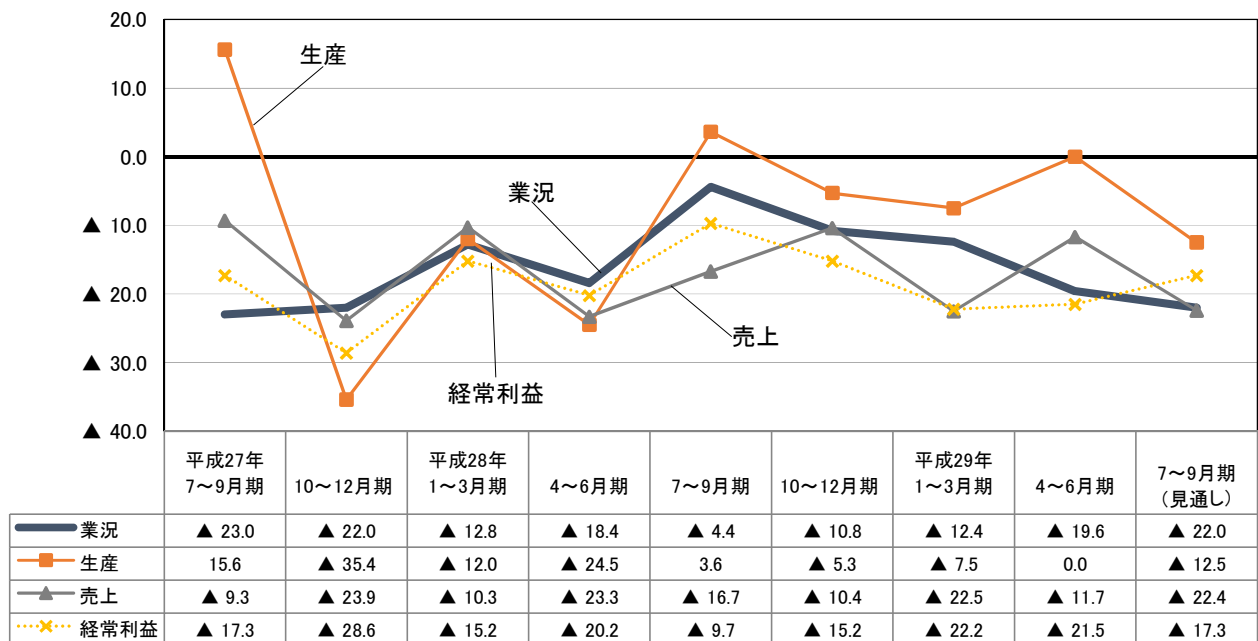
在庫動向

在庫数量 DI は前期に比べ 10.8 ポイント減の▲12.9 とマイナス幅が拡大した。
来期は、今期に比べ 7.1 ポイント減の▲20.0 とマイナス幅が拡大する見通しである。

雇用の水準

雇用の水準 DI は前期に比べ 1.7 ポイント増の▲25.0 とマイナス幅が縮小した。
来期は、今期に比べ 1.9 ポイント増の▲23.1 とマイナス幅が縮小する見通しである。

生産・売上・経常利益・業況の動き（実績）と来期の見通し



【業況の判断理由（企業の回答）】

<p><製造業></p> <ul style="list-style-type: none">・グループからの需要が回復局面にあって、恩恵を受けている。(情報通信機械器具製造業)・海外展開や新規事業への着手などが貢献し、業況回復を期待している。(輸送用機械器具製造業)・幅広い商材を手掛けることで、全体的な受注増が続いている。(化学工業)・自動車関係が厳しい中、新分野への事業展開に期待している。(輸送用機械器具製造業)
<p><建設業></p> <ul style="list-style-type: none">・地場密着の営業を展開しているが、工事案件の減少もあって、業績は伸び悩み。(総合工事業)・大手ハウスメーカーの下請として営業展開することで、一定の受注を維持。(職別工事業)・新会社を設立し、一部事業を移管しているが、工事受注自体が伸び悩んでいる。(総合工事業)
<p><卸売業></p> <ul style="list-style-type: none">・工事需要が好転しない中、資材売上の減少が続いている。(建築材料・鉱物・金属材料卸売業)・問屋筋が在庫を絞り始めたことで業績は伸び悩み。(繊維・衣服等卸売業)・民間工事の動向が不透明であり、今後の業況悪化に懸念がある。(生コンクリート仕入・販売業)・海外拠点設置など積極展開する他、同業の営業地盤継承しており、業況は改善基調。(機械器具卸売業)
<p><小売業></p> <ul style="list-style-type: none">・新規の取り組みをはじめており、業績の向上を見込んでいる。(飲食店)・既存店の業種転換など効率化に注力しているが、営業面は苦戦。(その他の小売業)・店舗兼工場を移転新築し、新規顧客開拓に注力も投資負担が大きい。(機械器具小売業)
<p><サービス業></p> <ul style="list-style-type: none">・公共工事の減少で受注が減少している。また人員確保も課題となっている。(建築設計業)・事業の再構築に取り組んでおり、収益改善に貢献している。(倉庫業)・近年利用者の低迷が続いており、業況は厳しい見込み。(宿泊業)

高島地域



売上・収益の動向と業況判断

業況 DI は前期に比べ 6.9 ポイント増の▲14.8 とマイナス幅が縮小した。生産 DI は 25.0 ポイント増の▲10.0 とマイナス幅が縮小し、売上 DI は 10.0 ポイント増の▲7.4、経常利益 DI は 8.5 ポイント増の▲11.1 と、ともにマイナス幅が縮小した。

来期は、業況 DI は今期に比べ 11.1 ポイント増の▲3.7 とマイナス幅が縮小する見通しである。生産 DI は 30.0 ポイント減の▲40.0、売上 DI は 3.3 ポイント減の▲10.7 とマイナス幅が拡大する見通しである。経常利益 DI は 11.1 ポイント増の 0.0 とマイナス幅が縮小する見通しである。

在庫動向

在庫数量 DI は前期に比べ 5.2 ポイント減の▲11.7 とマイナス幅が拡大した。

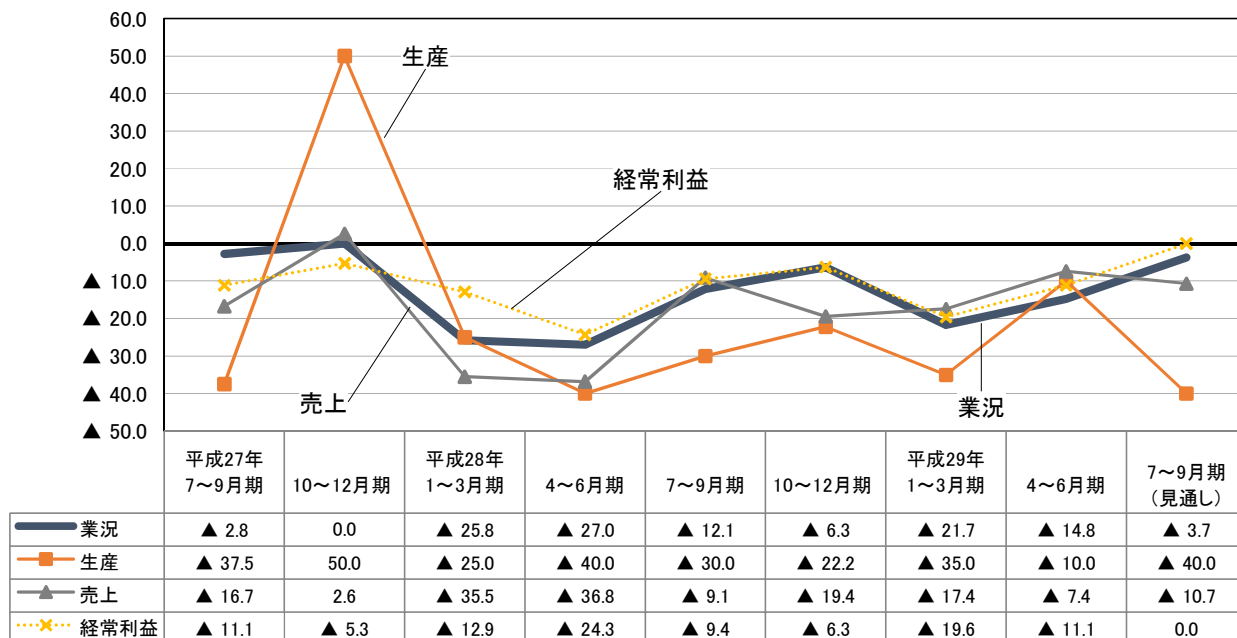
来期は、今期に比べ増減なく▲11.7 と今期と変わらない見通しである。

雇用の水準

雇用の水準 DI は前期に比べ 23.3 ポイント増の▲10.7 とマイナス幅が縮小した。

来期は、今期に比べ 3.6 ポイント減の▲14.3 とマイナス幅が拡大する見通しである。

生産・売上・経常利益・業況の動き（実績）と来期の見通し



【業況の判断理由（企業の回答）】

<p><製造業></p> <ul style="list-style-type: none">・価格競争は厳しく、収益は伸び悩んでいる。（電子部品・デバイス・電子回路製造）・グループ外取引を強化しており、大幅な落ち込みを回避した。（輸送用機械器具製造業）・過去最高売上高を連続更新中。積極的な設備投資による生産性向上も寄与。（プラスチック製品製造業）
<p><建設業></p> <ul style="list-style-type: none">・公共案件減少、民需低迷等から近時業績は軟化気味にある。（総合工事業）・社内職人や協力会社を多く抱えることで、安定した受注獲得を目指している。（職別工事業）
<p><卸売業></p> <ul style="list-style-type: none">・営業拠点を増やしたことで、業容は伸展傾向。（建築材料・鉱物・金属材料卸売業）・本業以外にFC事業等など、事業多角化を進めるが、市況を映じて軟化。（飲食料品卸売業）・ブランド力を活かし、卸売や通販など着実に業容拡大を見込む。（飲食料品卸売業）
<p><小売業></p> <ul style="list-style-type: none">・地元での知名度、地盤はあるものの、市場縮小が続いている。（その他の小売業）・業況厳しく、同業者との競合も避けられず、伸び悩んでいる。（その他の小売業）
<p><サービス業></p> <ul style="list-style-type: none">・農業人口が伸び悩んでいる中、サービス強化を図っている。（協同組合）・小規模多機能居宅介護施設を開設するなど、事業多角化で業容拡大を期待。（医療業）

【集計表】

注1：各項目の上段は、実績。下段（網掛け部分）は、1期前における当期見通し。

注2：業況/生産/売上/経常利益/雇用/在庫数量/資金繰り/引合//長期資金借入難易度/短期資金借入難易度/
採算の水準はDI値、設備投資実施割合は割合（%）を掲載している。

<全体>

全体	2016年 7-9月	10-12月	2017年 1-3月	4-6月	7-9月 見通し
業況	▲10.2 ▲19.3	▲10.2 ▲16.2	▲9.6 ▲14.3	▲7.7 ▲13.6	▲10.7
生産	▲12.6 ▲19.3	▲3.9 ▲9.8	▲6.6 ▲2.9	▲8.7 ▲4.6	▲7.2
売上	▲13.7 ▲23.2	▲9.6 ▲15.7	▲10.1 ▲14.0	▲7.2 ▲10.4	▲8.0
経常利益	▲11.8 ▲23.9	▲11.4 ▲16.5	▲9.4 ▲17.8	▲9.7 ▲14.7	▲13.9
雇用	▲27.9 ▲27.1	▲35.9 ▲31.6	▲35.4 ▲38.3	▲31.6 ▲38.2	▲33.1
在庫数量	▲8.3 ▲11.1	▲2.1 ▲11.7	▲7.6 ▲10.2	▲6.8 ▲7.3	▲10.4
資金繰り	▲1.7 ▲10.2	▲2.1 ▲6.9	▲3.5 ▲7.1	▲1.8 ▲6.7	▲5.9
引合	▲11.6 ▲19.1	▲7.9 ▲12.1	▲10.5 ▲11.3	▲11.7 ▲9.6	▲11.9
設備投資 実施割合	0.3 0.1	0.3 0.0	0.4 0.1	0.0 0.0	0.3
長期資金 借入難易度	10.0 9.6	12.0 5.5	11.9 9.3	5.5 9.2	2.6
短期資金 借入難易度	13.5 14.1	16.9 10.2	16.9 14.7	12.0 14.7	9.1
採算の水準	29.8 18.7	29.9 25.4	30.5 26.6	18.2 27.9	21.1

<企業規模別>

大企業	2016年 7-9月	10-12月	2017年 1-3月	4-6月	7-9月 見通し
業況	▲5.7 0.0	▲12.0 ▲16.3	▲4.7 ▲8.3	27.7 ▲2.4	22.2
生産	5.6 0.0	21.7 25.7	5.4 31.8	10.0 5.4	50.0
売上	▲4.5 ▲3.9	3.8 ▲13.8	▲2.4 9.8	27.7 9.5	44.4
経常利益	▲9.1 ▲6.5	▲3.9 ▲13.8	5.9 ▲6.0	5.5 6.1	16.7
雇用	▲44.1 ▲28.6	▲35.3 ▲41.3	▲46.1 ▲34.0	▲44.5 ▲49.4	▲38.9
在庫数量	5.8 ▲15.6	▲9.7 ▲4.0	2.0 ▲3.3	14.3 ▲6.0	14.3
資金繰り	2.4 0.0	▲8.9 ▲1.2	1.4 ▲4.5	▲5.5 ▲1.4	▲11.1
引合	▲5.9 ▲4.0	▲5.9 ▲7.1	2.4 ▲6.0	29.4 ▲6.0	29.4
設備投資 実施割合	0.5 0.1	0.5 0.0	0.5 0.1	0.5 0.0	0.6
長期資金 借入難易度	2.7 11.3	4.4 4.1	7.2 2.3	5.5 5.8	5.5
短期資金 借入難易度	3.9 8.1	6.8 6.7	7.7 2.3	5.5 7.7	5.5
採算の水準	54.0 48.7	47.1 48.8	67.9 51.0	44.4 69.0	53.0

中小企業	2016年 7-9月	10-12月	2017年 1-3月	4-6月	7-9月 見通し
業況	▲11.0 ▲21.4	▲10.1 ▲16.2	▲10.3 ▲14.8	▲8.8 ▲16.1	▲11.7
生産	▲15.5 ▲21.3	▲6.1 ▲15.4	▲8.3 ▲5.9	▲9.4 ▲6.1	▲9.2
売上	▲15.2 ▲25.3	▲10.7 ▲16.0	▲11.3 ▲16.0	▲8.2 ▲13.4	▲9.6
経常利益	▲12.3 ▲25.8	▲12.0 ▲16.9	▲11.7 ▲18.8	▲10.2 ▲17.9	▲15.0
雇用	▲25.2 ▲27.0	▲36.0 ▲29.9	▲33.8 ▲38.6	▲31.2 ▲36.5	▲32.9
在庫数量	▲11.0 ▲12.2	▲1.5 ▲12.5	▲8.5 ▲13.1	▲7.5 ▲9.5	▲11.2
資金繰り	▲2.3 ▲11.1	▲1.6 ▲7.7	▲4.1 ▲7.3	▲1.7 ▲7.7	▲5.9
引合	▲12.5 ▲20.7	▲8.1 ▲12.9	▲12.3 ▲11.7	▲12.9 ▲11.9	▲13.1
設備投資 実施割合	0.3 0.1	0.3 0.0	0.3 0.1	0.2 0.0	0.3
長期資金 借入難易度	11.0 9.5	12.6 5.7	12.5 9.8	5.5 9.6	2.5
短期資金 借入難易度	14.9 14.7	17.6 10.7	18.0 15.6	12.3 15.6	9.2
採算の水準	26.0 15.6	28.5 21.7	25.0 24.7	17.4 21.8	20.1

<業種別>

製造業 全体	2016年 7-9月	10-12月	2017年 1-3月	4-6月	7-9月 見通し
業況	▲6.2 ▲20.5	▲8.6 ▲14.3	▲8.3 ▲12.0	▲9.6 ▲7.8	▲11.0
生産	▲12.6 ▲19.3	▲3.9 ▲9.8	▲6.6 ▲2.9	▲8.7 ▲4.6	▲7.2
売上	▲16.0 ▲24.0	▲6.6 ▲13.8	▲12.1 ▲9.2	▲9.9 ▲6.7	▲10.1
経常利益	▲8.8 ▲23.9	▲11.5 ▲13.8	▲7.6 ▲14.8	▲10.3 ▲10.4	▲14.7
雇用	▲20.3 ▲16.2	▲33.7 ▲23.5	▲31.1 ▲32.6	▲28.9 ▲35.3	▲29.4
在庫数量	▲4.3 ▲10.0	1.9 ▲9.3	▲6.6 ▲6.6	▲7.6 ▲5.6	▲9.5
資金繰り	▲2.3 ▲10.3	▲3.3 ▲4.4	▲4.2 ▲9.0	▲2.7 ▲4.6	▲7.0
引合	▲8.0 ▲19.3	▲7.3 ▲5.9	▲5.5 ▲8.1	▲11.7 ▲4.5	▲9.5
設備投資 実施割合	0.4 0.0	0.4 0.0	0.5 0.0	0.0 0.0	0.3
長期資金 借入難易度	6.9 7.7	8.0 6.8	13.7 7.0	2.6 11.3	0.7
短期資金 借入難易度	11.5 12.9	13.6 11.2	19.9 13.0	11.2 18.2	8.6
採算の水準	31.7 19.2	28.4 31.3	37.1 27.1	16.1 36.9	20.8

製造業 大企業	2016年 7-9月	10-12月	2017年 1-3月	4-6月	7-9月 見通し
業況	14.7 ▲5.9	0.0 6.1	14.3 4.3	60.0 11.4	50.0
生産	5.6 0.0	21.7 25.7	5.4 31.8	10.0 5.4	50.0
売上	6.1 0.0	12.0 12.5	5.7 29.2	30.0 14.3	50.0
経常利益	3.0 0.0	12.5 6.3	8.6 17.4	30.0 8.8	50.0
雇用	▲25.0 ▲21.2	▲29.2 ▲20.0	▲37.8 ▲30.4	▲40.0 ▲43.2	▲20.0
在庫数量	19.4 ▲13.8	▲18.2 0.0	▲5.6 0.0	10.0 0.0	10.0
資金繰り	6.5 ▲3.8	0.0 10.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0
引合	9.7 0.0	▲8.3 10.0	2.9 ▲4.3	50.0 8.8	50.0
設備投資 実施割合	0.6 0.0	0.6 0.0	0.8 0.0	0.8 0.0	0.7
長期資金 借入難易度	3.7 4.0	5.3 3.8	0.0 0.0	10.0 0.0	10.0
短期資金 借入難易度	3.6 0.0	5.3 7.4	0.0 0.0	10.0 0.0	10.0
採算の水準	42.4 38.2	50.0 46.9	70.6 56.5	40.0 82.4	55.6

製造業 中小企業	2016年 7-9月	10-12月	2017年 1-3月	4-6月	7-9月 見通し
業況	▲9.3 ▲22.1	▲9.4 ▲17.4	▲11.4 ▲13.4	▲12.0 ▲10.6	▲13.2
生産	▲15.5 ▲21.3	▲6.1 ▲15.4	▲8.3 ▲5.9	▲9.4 ▲6.1	▲9.2
売上	▲19.2 ▲26.7	▲8.3 ▲17.6	▲14.5 ▲12.7	▲11.3 ▲9.7	▲12.1
経常利益	▲10.5 ▲26.6	▲13.6 ▲16.7	▲9.8 ▲17.6	▲11.7 ▲13.0	▲17.0
雇用	▲19.6 ▲15.7	▲34.1 ▲24.0	▲30.1 ▲32.8	▲28.6 ▲34.1	▲29.8
在庫数量	▲7.9 ▲9.6	3.8 ▲10.8	▲6.8 ▲7.2	▲8.2 ▲6.5	▲10.2
資金繰り	▲3.5 ▲10.9	▲3.5 ▲6.4	▲4.7 ▲9.6	▲2.8 ▲5.2	▲7.2
引合	▲10.4 ▲21.3	▲7.2 ▲8.0	▲6.7 ▲8.5	▲13.8 ▲6.3	▲11.6
設備投資 実施割合	0.3 0.0	0.4 0.0	0.4 0.0	0.3 0.0	0.3
長期資金 借入難易度	7.3 8.1	8.2 7.1	15.2 7.5	2.4 12.6	0.3
短期資金 借入難易度	12.6 14.0	14.2 11.7	22.1 13.9	11.3 20.2	8.5
採算の水準	30.1 17.1	26.4 29.0	32.5 24.5	15.2 30.6	19.8

サービス業 全体	2016年 7-9月	10-12月	2017年 1-3月	4-6月	7-9月 見通し
業況	▲11.4 ▲16.1	▲6.7 ▲18.2	▲4.3 ▲8.6	0.8 ▲11.5	▲4.3
生産	-	-	-	-	-
売上	▲9.1 ▲17.2	▲7.7 ▲17.3	▲7.4 ▲10.2	9.1 ▲6.5	▲0.7
経常利益	▲12.8 ▲19.1	▲3.9 ▲19.0	▲9.3 ▲12.3	▲2.8 ▲12.7	▲8.6
雇用	▲33.0 ▲39.1	▲44.1 ▲36.6	▲39.2 ▲47.6	▲32.9 ▲40.0	▲35.9
在庫数量	-	-	-	4.8	▲4.6
資金繰り	▲5.7 ▲8.6	2.7 ▲11.5	1.7 ▲2.7	▲4.1 ▲3.0	▲4.1
引合	▲11.3 ▲16.5	▲2.1 ▲16.1	▲3.6 ▲7.5	▲1.5 ▲3.0	▲6.1
設備投資 実施割合	0.3 0.1	0.3 0.0	0.3 0.1	0.0 0.0	0.2
長期資金 借入難易度	9.3 8.1	14.0 2.2	12.2 8.3	4.4 8.1	1.5
短期資金 借入難易度	13.4 9.5	17.3 7.3	16.2 12.7	9.2 13.2	7.7
採算の水準	27.4 22.8	34.4 18.7	30.4 33.9	28.8 26.5	23.8

サービス業 大企業	2016年 7-9月	10-12月	2017年 1-3月	4-6月	7-9月 見通し
業況	▲39.1 5.9	▲38.5 ▲43.5	▲8.0 ▲23.1	▲25.0 ▲4.0	▲25.0
生産	-	-	-	-	-
売上	▲25.0 5.9	▲28.6 ▲41.7	0.0 ▲14.3	50.0 ▲16.7	50.0
経常利益	▲33.3 0.0	▲28.6 ▲45.8	0.0 ▲14.3	▲25.0 0.0	▲25.0
雇用	▲50.0 ▲38.9	▲35.7 ▲45.8	▲50.0 ▲21.4	▲75.0 ▲50.0	▲75.0
在庫数量	-	-	-	-	-
資金繰り	0.0 6.3	▲23.1 ▲13.0	4.2 ▲23.1	0.0 ▲4.2	▲25.0
引合	▲20.8 ▲5.9	▲7.1 ▲29.2	11.5 ▲7.1	33.3 ▲3.8	33.3
設備投資 実施割合	0.4 0.0	0.4 0.0	0.4 0.1	0.3 0.0	0.8
長期資金 借入難易度	4.8 6.7	0.0 4.8	8.3 0.0	0.0 4.2	0.0
短期資金 借入難易度	9.5 6.7	0.0 9.5	4.8 0.0	0.0 4.8	0.0
採算の水準	62.5 41.2	28.6 41.7	65.4 28.6	75.0 61.5	75.0

サービス業 中小企業	2016年 7-9月	10-12月	2017年 1-3月	4-6月	7-9月 見通し
業況	▲7.5 ▲17.9	▲4.2 ▲14.6	▲3.7 ▲7.4	1.4 ▲13.0	▲3.7
生産	-	-	-	-	-
売上	▲6.7 ▲19.2	▲6.0 ▲13.7	▲8.7 ▲9.8	7.9 ▲10.7	▲2.2
経常利益	▲9.8 ▲20.7	▲1.8 ▲15.0	▲10.9 ▲12.1	▲2.2 ▲15.2	▲8.1
雇用	▲30.6 ▲39.1	▲44.8 ▲35.3	▲37.2 ▲49.7	▲31.6 ▲38.2	▲34.8
在庫数量	-	-	-	4.8	▲4.6
資金繰り	▲6.5 ▲9.8	4.7 ▲11.3	1.4 ▲1.2	▲4.2 ▲4.2	▲3.5
引合	▲9.9 ▲17.4	▲1.7 ▲14.2	▲6.3 ▲7.5	▲2.3 ▲4.2	▲7.0
設備投資 実施割合	0.3 0.1	0.2 0.0	0.3 0.0	0.2 0.0	0.2
長期資金 借入難易度	9.9 8.2	15.1 1.9	12.9 9.0	4.5 8.8	1.5
短期資金 借入難易度	13.9 9.7	18.8 7.1	18.0 13.8	9.5 14.5	7.9
採算の水準	22.5 21.3	34.9 15.4	24.1 34.3	27.4 20.1	22.4

<地域別>

大津地域 全体	2016年		2017年		7-9月 見通し	南部地域 全体	2016年		2017年		7-9月 見通し	甲賀地域 全体	2016年		2017年		7-9月 見通し
	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月			7-9月	10-12月	1-3月	4-6月			7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	
業況	▲ 3.9	▲ 12.5	▲ 3.9	▲ 5.3		業況	▲ 8.5	▲ 6.5	▲ 3.1	0.0		業況	▲ 20.6	▲ 16.0	▲ 27.2	▲ 4.4	
	▲ 11.0	▲ 5.0	▲ 13.5	▲ 9.2	▲ 12.6		▲ 17.1	▲ 17.8	▲ 12.2	▲ 7.1	▲ 2.5		▲ 24.3	▲ 20.0	▲ 9.9	▲ 17.6	▲ 11.0
生産	17.9	▲ 18.5	23.1	2.8		生産	0.0	8.8	13.6	1.2		生産	▲ 30.9	▲ 10.6	▲ 32.7	▲ 21.5	
	▲ 35.0	▲ 10.7	▲ 8.7	▲ 20.0	5.5		▲ 7.2	▲ 5.3	▲ 3.6	▲ 19.3	1.2		▲ 12.1	▲ 9.3	▲ 8.7	▲ 19.6	▲ 19.6
売上	▲ 1.0	▲ 12.0	5.8	▲ 3.2		売上	▲ 9.0	▲ 1.3	2.3	2.4		売上	▲ 22.2	▲ 16.0	▲ 25.5	▲ 5.4	
	▲ 17.4	▲ 5.0	▲ 18.8	▲ 8.1	▲ 5.3		▲ 14.9	▲ 18.0	▲ 9.3	▲ 4.0	▲ 1.8		▲ 23.9	▲ 17.3	▲ 14.1	▲ 16.1	▲ 15.2
経常利益	▲ 1.0	▲ 13.7	8.8	▲ 12.6		経常利益	▲ 7.0	▲ 3.9	▲ 0.8	▲ 4.3		経常利益	▲ 21.3	▲ 14.7	▲ 30.1	▲ 9.8	
	▲ 23.6	▲ 11.9	▲ 20.5	▲ 5.2	▲ 14.9		▲ 19.6	▲ 16.8	▲ 14.7	▲ 5.6	▲ 10.4		▲ 23.0	▲ 21.9	▲ 17.0	▲ 24.7	▲ 21.7
雇用	▲ 29.6	▲ 30.5	▲ 31.2	▲ 37.0		雇用	▲ 28.1	▲ 41.1	▲ 39.6	▲ 35.2		雇用	▲ 25.0	▲ 38.5	▲ 26.8	▲ 28.3	
	▲ 29.8	▲ 31.7	▲ 37.1	▲ 38.0	▲ 42.7		▲ 32.7	▲ 31.9	▲ 45.2	▲ 44.7	▲ 35.2		▲ 30.8	▲ 30.9	▲ 45.7	▲ 34.0	▲ 29.4

東近江地域 全体	2016年		2017年		7-9月 見通し	湖東地域 全体	2016年		2017年		7-9月 見通し	湖北地域 全体	2016年		2017年		7-9月 見通し
	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月			7-9月	10-12月	1-3月	4-6月			7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	
業況	▲ 4.1	▲ 12.0	▲ 8.1	▲ 4.5		業況	▲ 20.0	▲ 6.6	▲ 8.8	▲ 31.6		業況	▲ 4.4	▲ 10.8	▲ 12.4	▲ 19.6	
	▲ 14.8	▲ 20.8	▲ 13.0	▲ 12.3	▲ 4.6		▲ 23.8	▲ 20.0	▲ 22.5	▲ 21.1	▲ 35.1		▲ 24.1	▲ 16.2	▲ 15.2	▲ 15.1	▲ 22.0
生産	▲ 18.0	1.7	0.0	▲ 11.1		生産	▲ 32.3	▲ 6.3	▲ 16.2	▲ 34.8		生産	3.6	▲ 5.3	▲ 7.5	0.0	
	▲ 24.4	▲ 20.4	▲ 1.7	▲ 3.6	1.7		▲ 29.2	▲ 13.3	▲ 22.9	▲ 31.4	▲ 30.5		▲ 18.8	▲ 10.7	▲ 2.6	▲ 7.5	▲ 12.5
売上	▲ 10.9	▲ 9.9	▲ 6.4	▲ 9.0		売上	▲ 30.7	▲ 9.8	▲ 20.0	▲ 36.8		売上	▲ 16.7	▲ 10.4	▲ 22.5	▲ 11.7	
	▲ 20.0	▲ 15.2	▲ 6.4	▲ 5.6	3.8		▲ 38.8	▲ 20.0	▲ 28.1	▲ 19.7	▲ 26.3		▲ 29.2	▲ 19.4	▲ 11.8	▲ 19.8	▲ 22.4
経常利益	▲ 9.0	▲ 11.7	▲ 4.5	2.7		経常利益	▲ 29.3	▲ 16.3	▲ 8.9	▲ 33.3		経常利益	▲ 9.7	▲ 15.2	▲ 22.2	▲ 21.5	
	▲ 20.7	▲ 14.3	▲ 13.5	▲ 14.0	▲ 0.9		▲ 29.4	▲ 25.3	▲ 23.3	▲ 20.8	▲ 38.6		▲ 28.9	▲ 13.9	▲ 20.6	▲ 24.4	▲ 17.3
雇用	▲ 32.4	▲ 39.5	▲ 39.3	▲ 30.6		雇用	▲ 36.3	▲ 30.4	▲ 50.0	▲ 36.2		雇用	▲ 18.3	▲ 33.3	▲ 26.7	▲ 25.0	
	▲ 23.7	▲ 34.0	▲ 36.8	▲ 38.4	▲ 37.2		▲ 23.6	▲ 41.3	▲ 34.1	▲ 48.8	▲ 28.1		▲ 18.0	▲ 22.5	▲ 28.4	▲ 27.8	▲ 23.1

高島地域 全体	2016年		2017年		7-9月 見通し
	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	
業況	▲ 12.1	▲ 6.3	▲ 21.7	▲ 14.8	
	▲ 32.4	▲ 9.1	▲ 19.4	▲ 21.4	▲ 3.7
生産	▲ 30.0	▲ 22.2	▲ 35.0	▲ 10.0	
	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 11.1	▲ 36.8	▲ 40.0
売上	▲ 9.1	▲ 19.4	▲ 17.4	▲ 7.4	
	▲ 35.1	▲ 18.2	▲ 10.0	▲ 22.0	▲ 10.7
経常利益	▲ 9.4	▲ 6.3	▲ 19.6	▲ 11.1	
	▲ 34.3	▲ 3.1	▲ 19.4	▲ 12.2	0.0
雇用	▲ 17.6	▲ 31.3	▲ 34.0	▲ 10.7	
	▲ 23.1	▲ 20.6	▲ 25.0	▲ 30.4	▲ 14.3

景 気 調 査

1. 現在の景気の水準について

(1) 構成比

全体の景気判断では、『良い』（「良い」と「やや良い」を合わせた割合。以下同様）が19%である一方、『悪い』（「やや悪い」と「悪い」を合わせた割合。以下同様）は約2倍の37%を占めている。

構成比では、「どちらとも言えない」の43%がもっとも高く、次に「やや悪い」の29%が高くなっている。続いて、「やや良い」が17%、「悪い」が8%、「良い」は2%であった。

業種別にみると、販売関連、サービス関連では、『悪い』が『良い』より割合が高く、特に販売関連では『悪い』が『良い』の10倍となった。一方、雇用関連では『良い』が、『悪い』の約2倍となった。（図表1）

図表1 構成比（現在の景気の水準）

	『良い』		どちらとも言えない	『悪い』	
	良い	やや良い		やや悪い	悪い
全体	19%		43%	37%	
	2%	17%		29%	8%
販売関連	5%		45%	50%	
	0%	5%		39%	11%
サービス関連	17%		54%	29%	
	2%	15%		24%	5%
雇用関連	50%		27%	24%	
	7%	43%		17%	7%

※『良い』:「良い」と「やや良い」を合わせた割合

『悪い』:「悪い」と「やや悪い」を合わせた割合

(2) 景気の水準DI

全体の景気の水準DIは▲24.1で、前期調査（平成29年3月）の▲44.6からマイナス幅が20.5ポイント縮小した。業種別にみると、販売関連DIは▲60.2で前期に比べマイナス幅が11.4ポイント拡大し、サービス関連DIは▲17.5で前期に比べマイナス幅が30.5ポイント縮小した。雇用関連DIは28.6で前期に比べプラス幅が6.4ポイント拡大した。（図表2）

(3) 前期調査の回答割合との比較

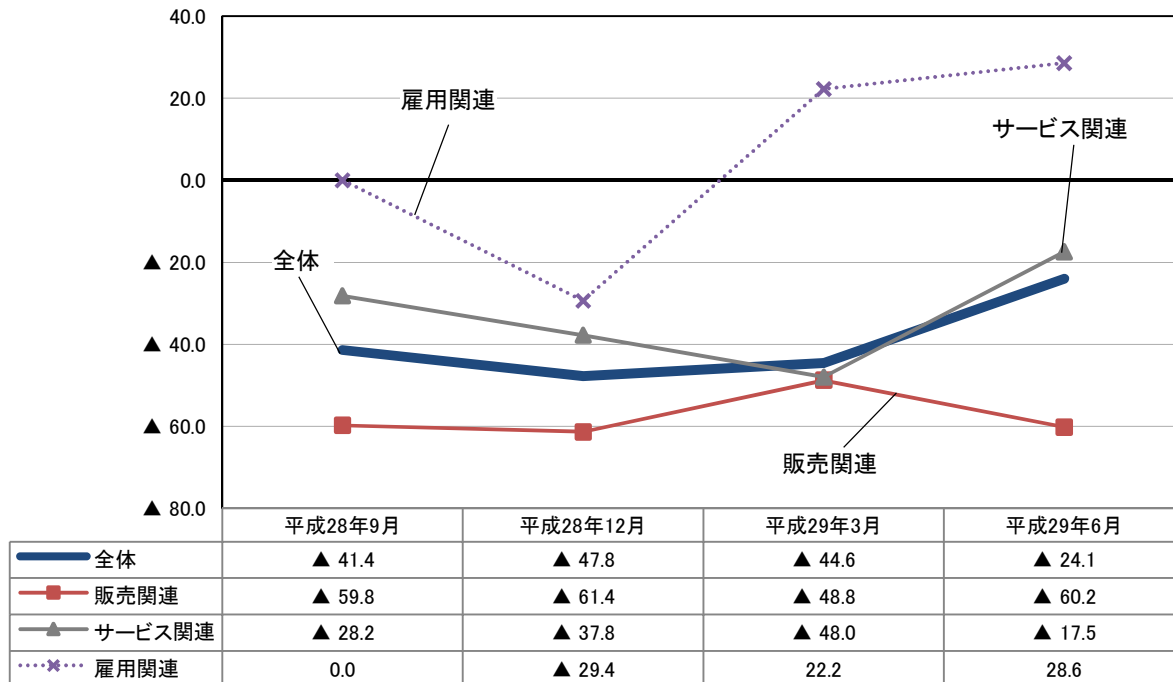
前期調査の回答割合と比較すると、全体では、『良い』は12ポイント増加、『悪い』は横這いで推移した。業種別にみると、販売関連では『良い』は横這いで推移し、『悪い』は増加した。サービス関連では『良い』は増加し、『悪い』は減少した。雇用関連では『良い』、『悪い』のいずれも増加している。（図表3）

(4) 判断理由

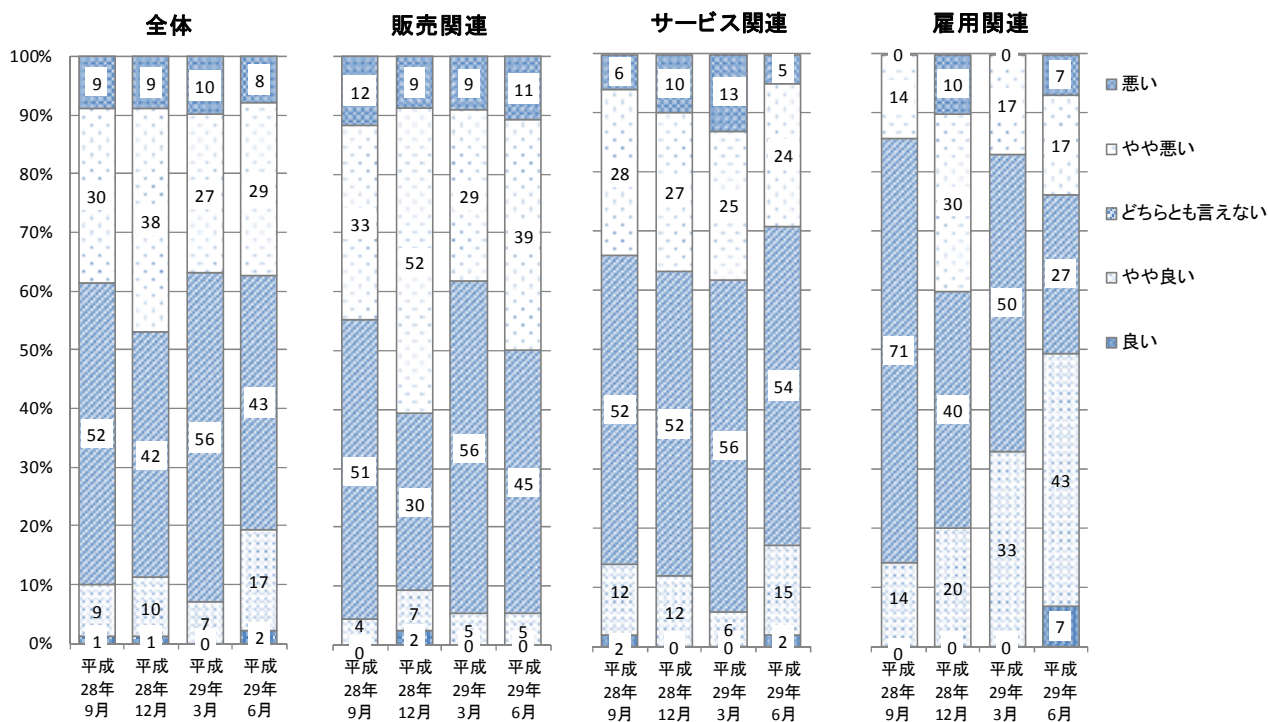
判断理由としては、『良い』は「人材募集をする企業・店舗が増えている」（68.0%）が最も高く、次いで「人手不足」（60.0%）と続き、雇用の活性化を理由としているものが多い。『悪い』は「売上動向」（76.6%）、「人手不足」（53.2%）の順となっている。業種別にみると、販売関連、サービス関連ではともに『良い』、『悪い』のいずれも「売上動向」の割合が最も高い。雇用関連では『良い』は「人手不

足」、「人材募集をする企業・店舗が増えている」が同率で最も高く、『悪い』は「不況・景気の先行きが不透明という話をよく聞く」の割合が最も高い。(図表 4)

図表 2 景気の水準 DI



図表 3 構成比推移 (現在の景気)



図表4 判断理由（現在の景気）

	回答件数（件）	仕事の状況について											仕事を通して接するお客様の様子について											その他	分らない	
		売上動向	利益動向	受注動向	資金繰り・資金調達の動向	同業他社の動向	取引先の動向	販売価格の動向	仕入れ等の価格の動向	人手不足	人手過剰	営業環境・作業環境の変動	経済情勢の変動	景気のいい話をよく聞く	不況・景気の先行きが不明という話をよく聞く	収入増加への期待感がある	収入減少への不安感がある	物価が上がっている	物価が下がっている	自由に使えるお金が増えている	自由に使えるお金が減っている	人材募集をする企業・店舗が増えている	人材募集をする企業・店舗が減っている			
全体	『良い』	25	48.0	8.0	36.0	0.0	12.0	24.0	4.0	0.0	60.0	0.0	4.0	8.0	20.0	8.0	16.0	4.0	0.0	0.0	8.0	4.0	68.0	0.0	0.0	4.0
	どちらとも言えない	55	69.1	41.8	29.1	0.0	27.3	7.3	16.4	10.9	52.7	0.0	5.5	23.6	0.0	45.5	3.6	38.2	14.5	3.6	1.8	21.8	36.4	1.8	1.8	0.0
	『悪い』	47	76.6	34.0	14.9	2.1	25.5	12.8	14.9	6.4	53.2	2.1	8.5	6.4	0.0	51.1	0.0	34.0	17.0	6.4	2.1	29.8	25.5	2.1	0.0	0.0
販売関連	『良い』	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
	どちらとも言えない	25	76.0	52.0	8.0	0.0	32.0	4.0	24.0	8.0	64.0	0.0	0.0	24.0	0.0	40.0	0.0	56.0	20.0	4.0	0.0	36.0	48.0	4.0	0.0	0.0
	『悪い』	28	85.7	32.1	0.0	0.0	25.0	10.7	17.9	7.1	57.1	3.6	10.7	7.1	0.0	50.0	0.0	28.6	14.3	3.6	3.6	32.1	25.0	0.0	0.0	0.0
サービス関連	『良い』	7	85.7	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0	14.3
	どちらとも言えない	22	63.6	40.9	45.5	0.0	27.3	9.1	13.6	18.2	54.5	0.0	13.6	27.3	0.0	54.5	9.1	27.3	9.1	4.5	4.5	13.6	27.3	0.0	0.0	0.0
	『悪い』	12	83.3	58.3	41.7	0.0	33.3	16.7	8.3	8.3	58.3	0.0	0.0	0.0	0.0	41.7	0.0	33.3	16.7	8.3	0.0	41.7	33.3	0.0	0.0	0.0
雇用関連	『良い』	15	20.0	13.3	53.3	0.0	6.7	33.3	0.0	0.0	86.7	0.0	6.7	6.7	26.7	0.0	26.7	0.0	0.0	0.0	0.0	86.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	どちらとも言えない	8	62.5	12.5	50.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	37.5	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	25.0	0.0	12.5	0.0	0.0
	『悪い』	7	28.6	0.0	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0	28.6	0.0	14.3	14.3	0.0	71.4	0.0	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0

（※行方向での各回答数上位 1 位：網掛け。以下同様）

○現在の景気の水準について

販売関連	『良い』	・ 自店の状況。（百貨店，総合スーパー）
	どちらとも言えない	・ とにかく、従業員不足をよく耳にする。（コンビニエンスストア） ・ 先行き不安による節約志向、不要不急な物は買わない。（百貨店，総合スーパー） ・ 社員の高齢化。社会保障制度への不安、不信。（百貨店，総合スーパー） ・ 人材募集をしても人が集まらない。会社の給与形態が変わって減られる。（百貨店，総合スーパー） ・ 景気が良くなり、インフレ傾向となれば販売価格、売上に影響が出るはず。（百貨店，総合スーパー）
	『悪い』	・ 人手不足の影響もあり、既存の社員の負担が大きくなってきている。（百貨店，総合スーパー） ・ 価格は安くないと売れないが、原材料の値段が上がっている。（百貨店，総合スーパー） ・ 直近の営業収入の状況が、目標対比・前年同期比で下回っている。（百貨店，総合スーパー）
サービス関連	『良い』	・ 訪日外国人が増えて売上が伸びている。反面、既存旅行会社は取扱いが伸び悩んでいるよう。（旅館，ホテル） ・ 高齢者の利用増。新聞折り込みの求人多様化。国際的不安定による景気動向不透明。（劇場）
	どちらとも言えない	・ 稼働も変わっていない。（一般乗用旅客自動車運送業） ・ 輸入卸製品取り扱いの関係上、為替に左右されること大きい。その他配送費用負担大。（旅行業） ・ お客様によって格差があり、二極化しているので状況がつかみにくい。また、風潮の変化も大きな要因。（旅行者代理業）
	『悪い』	・ 宴会をされる企業様が減っている。（旅館，ホテル） ・ 宿泊客が昨年より少ない。（旅館，ホテル） ・ 景気よりも、社会情勢や他社競争等に左右されているため、景気判断が難しい。（旅

		行業)
雇用 関連	『良い』	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景気がよく、人手不足。(職業紹介業) ・ 最近特にマンション等の清掃業務の申込が多い。(職業紹介業) ・ 元の職場復帰や就職のため、退会するシルバー会員が見受けられる。(職業紹介業)
	どちらとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年同期比の新規求人数はほぼ横ばいである。(ハローワーク) ・ 昨年と比較し、特に変化はない。(職業紹介業) ・ 増員傾向と何うが、景気が良いとまでは話にならない。(労働者派遣業) ・ 会社の売上・利益等から。(労働者派遣業) ・ 売上増も利益率減少。受注は変化なし。(労働者派遣業)
	『悪い』	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法の改正等による利益率の低下。(労働者派遣業)

2. 景気の方向性について

(1) 構成比

3カ月前と比較した現状についての全体の景気判断では、「どちらとも言えない」が58%と約6割を占めている。また、『好転』（「良くなっている」と「やや良くなっている」を合わせた割合。以下同様）は15%であるのに対し、『悪化』（「やや悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合。以下同様）は28%と約2倍となっている。見通しについては、「どちらとも言えない」が64%と、先行きについて不透明とする回答が6割以上を占める結果となった。

現状について業種別にみると、販売関連、サービス関連、雇用関連のいずれもが全体の傾向と同様に「どちらとも言えない」が最も高く、それぞれ48%、76%、50%となっている。見通しについて業種別にみた場合も、3業種いずれも「どちらとも言えない」が最も高く、先行き不透明とする回答が多い結果となっている。なお、サービス関連、雇用関連では『好転』の割合が『悪化』を上回ったが、販売関連では『悪化』の割合が『好転』を上回っている。（図表5）

図表5 構成比（景気の方向性）

		好転		どちらとも言えない	悪化	
		良くなっている	やや良くなっている		やや悪くなっている	悪くなっている
全体	現状	15%		58%	28%	
		2%	13%		19%	9%
	見通し	20%		64%	17%	
		3%	17%		14%	3%
販売関連	現状	7%		48%	45%	
		2%	5%		32%	13%
	見通し	12%		65%	23%	
		0%	12%		19%	4%
サービス関連	現状	15%		76%	10%	
		5%	10%		5%	5%
	見通し	21%		67%	13%	
		3%	18%		13%	0%
雇用関連	現状	30%		50%	20%	
		0%	30%		13%	7%
	見通し	30%		57%	14%	
		7%	23%		7%	7%

※『好転』：「良くなっている」と「やや良くなっている」を合わせた割合

『悪化』：「やや悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合

(2) 景気の方向性DI

3カ月前と比較した全体の景気方向性DIは▲20.5と、前期に比べマイナス幅が7.6ポイント縮小した。業種別にみると、販売関連DIでは▲51.6と前期に比べマイナス幅が20.4ポイント拡大した。一方、サービス関連DIでは7.3、雇用関連DIも8.5と、ともにマイナスからプラスに転じた。

3カ月先の見通しに関する全体の景気方向性DIは1.7で、マイナスからプラスに転じる見通しとなっている。業種別にみると、販売関連DIではマイナス幅が今期に比べ32.2ポイント縮小し、サービス関連、雇用関連ではプラス幅がそれぞれ5.9ポイント、12.8ポイントと拡大する見通しとなっている。（図表6）

(3) 前期調査の回答割合との比較

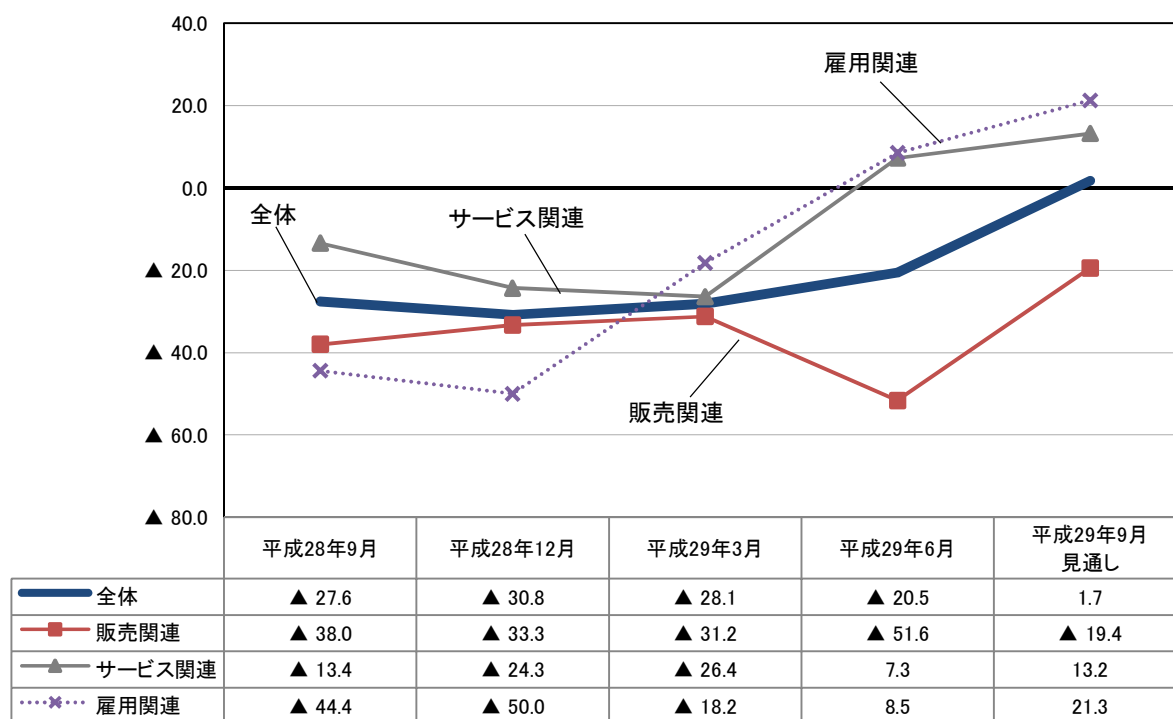
前期調査の回答割合と比較すると、全体としては、『好転』、『悪化』の割合がともに増加し、「どちらとも言えない」が減少している。業種別にみると、販売関連では、『好転』は横這い、『悪化』は増加している。サービス関連では、『好転』は増加、『悪化』は減少している。雇用関連では、『好転』、『悪化』ともに減少し「どちらとも言えない」は増加した。

見通しについては、全体の傾向として『好転』、「どちらとも言えない」はともに増加、『悪化』は減少する見通しとなっている。業種別にみると、販売関連では全体と同様、『悪化』は減少し、『好転』は増加している。サービス関連では『好転』、『悪化』ともに増加している。雇用関連では、『悪化』は減少しているものの、『好転』は横這い、「どちらとも言えない」が増加しており、先行き不透明な見通しとなっている。(図表7)

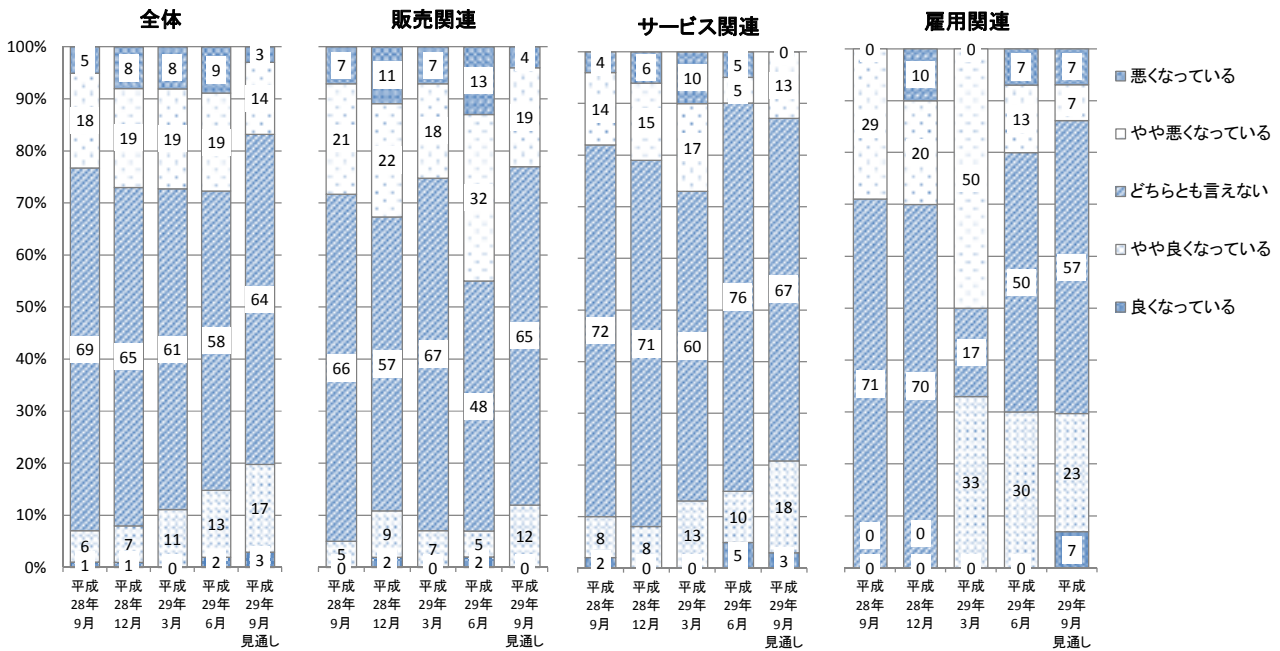
(4) 判断理由

判断理由としては、現在では『良くなっている』は「売上動向」、「人材募集をする企業・店舗が増えている」(ともに57.9%)が最も高い。『悪くなっている』は「売上動向」(74.3%)、「不況・景気の先行きが不透明という話をよく聞く」(57.1%)の順となっている。業種別にみると、販売関連では、『良くなっている』は全体と同様「売上動向」、「人材募集をする企業・店舗が増えている」が同率で最も高く、『悪くなっている』は「売上動向」が最も高い。サービス関連では『良くなっている』は「売上動向」の割合が最も高く、『悪くなっている』は「売上動向」、「自由に使えるお金が減っている気がする」の割合が同率で最も高い。雇用関連では『良くなっている』は「人手不足」、「人材募集をする企業・店舗が増えている」の割合が同率で最も高く、『悪くなっている』は「営業環境・操業環境の変動」、「不況・景気の先行きが不透明という話をよく聞く」の割合が同率で最も高い。(図表8)

図表6 景気の方向性DI



図表7 構成比推移（景気の方向性）



図表8 判断理由（景気の方向性）

（3ヶ月前と比較した現在の景気について）

Category	Direction	回答件数 (件)	仕事の状況について										仕事を通して接するお客様の様子について										その他	分らない (%)		
			売上動向	利益動向	受注動向	資金繰り・資金調達の動向	同業他社の動向	取引先の動向	販売価格の動向	仕入れ等の価格の動向	人手不足	人手過剰	営業環境・操業環境の変	経済情勢の変動	景気のいい話をよく聞く	透明という話をよく聞く	不況・景気の先行きが不明	収入増加への期待感がある	収入減少への不安感がある	物価が上がっている	物価が下がっている	自由に使えるお金が増えている			自由に使えるお金が減っている	人材募集をする企業・店が増えている
全体	『良くなっている』	19	57.9	31.6	26.3	0.0	15.8	21.1	5.3	0.0	47.4	0.0	10.5	10.5	26.3	5.3	10.5	10.5	15.8	0.0	5.3	0.0	57.9	0.0	0.0	5.3
	『どちらとも言えない』	72	66.7	34.7	26.4	1.4	19.4	6.9	16.7	6.9	47.2	0.0	5.6	16.7	0.0	44.4	2.8	22.2	8.3	2.8	4.2	23.6	30.6	1.4	1.4	1.4
	『悪くなっている』	35	74.3	28.6	8.6	5.7	31.4	11.4	11.4	5.7	45.7	0.0	22.9	17.1	0.0	57.1	2.9	48.6	11.4	5.7	2.9	40.0	17.1	0.0	0.0	0.0
販売関連	『良くなっている』	4	100.0	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	『どちらとも言えない』	26	80.8	42.3	3.8	0.0	15.4	3.8	26.9	7.7	53.8	0.0	0.0	19.2	0.0	30.8	0.0	26.9	7.7	3.8	3.8	38.5	46.2	3.8	0.0	3.8
	『悪くなっている』	25	88.0	32.0	0.0	0.0	36.0	8.0	12.0	8.0	48.0	0.0	20.0	20.0	0.0	64.0	0.0	56.0	16.0	4.0	4.0	40.0	16.0	0.0	0.0	0.0
サービス関連	『良くなっている』	6	83.3	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7
	『どちらとも言えない』	31	67.7	41.9	41.9	0.0	25.8	3.2	16.1	9.7	41.9	0.0	6.5	22.6	0.0	61.3	6.5	19.4	9.7	3.2	6.5	19.4	16.1	0.0	0.0	0.0
	『悪くなっている』	4	75.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
雇用関連	『良くなっている』	9	22.2	22.2	55.6	0.0	0.0	44.4	0.0	0.0	66.7	0.0	11.1	22.2	44.4	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	『どちらとも言えない』	15	40.0	6.7	33.3	6.7	13.3	20.0	0.0	0.0	46.7	0.0	13.3	0.0	0.0	33.3	0.0	20.0	6.7	0.0	0.0	6.7	33.3	0.0	6.7	0.0
	『悪くなっている』	6	16.7	0.0	16.7	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	50.0	16.7	0.0	50.0	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0

○3カ月前と比較した現在の景気について

販売関連	『良くなっている』	・ 自店の現況より回答。(百貨店, 総合スーパー)
	どちらとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> ・ ここ2~3年、率としては高くないが、上昇傾向が続いている。(コンビニエンスストア) ・ 顧客開拓よりも地域密着の商売が肝要。(百貨店, 総合スーパー) ・ 景気が良くなり、インフレ傾向となれば販売価格、売上に影響が出るはず。(百貨店, 総合スーパー) ・ 自店の状況。(百貨店, 総合スーパー)
	『悪くなっている』	<ul style="list-style-type: none"> ・ ここのところ売上減少している。(コンビニエンスストア) ・ 今年度第1四半期の状況が、前年度対比で悪化傾向。(百貨店, 総合スーパー) ・ 人手不足の影響もあり、既存の社員の負担が大きくなってきている。(百貨店, 総合スーパー)
サービス関連	『良くなっている』	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪日外国人が増えて売上が伸びている。反面、既存旅行会社は取扱いが伸び悩んでいるよう。(旅館, ホテル) ・ 単純に、3カ月前は閑散期である。(旅館, ホテル)
	どちらとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 稼働も変わっていない。(一般乗用旅客自動車運送業) ・ 国際情勢への不安。(劇場) ・ 新年度に向けての計画戦略立案上、取引先見直しと市場開拓への対応のため。(旅行業) ・ 景気よりも、社会情勢や他社競合等に左右されているため、景気判断が難しい。(旅行業) ・ 特段大きな変化は見受けられない。(旅行業者代理業)
	『悪くなっている』	(コメントなし)
雇用関連	『良くなっている』	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材募集されても人が集まらない。(職業紹介業) ・ 季節による変動もあるが、受注は増加傾向。(職業紹介業)
	どちらとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年同期の動きと比較してもあまり変化は感じられない。(ハローワーク) ・ 景気がよく、人手不足(職業紹介業) ・ 昨年同時期と特に変化はない。(職業紹介業) ・ 3ヶ月前と変化ない。(職業紹介業) ・ 四半期前より増えている。(労働者派遣業) ・ 3カ月前と変化なし。(労働者派遣業)
	『悪くなっている』	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の就職率が高い、求人倍率が高いと聞くと、周囲の景気は良くないと思う。(労働者派遣業) ・ 法の改正等による利益率の低下。(労働者派遣業)

(3ヶ月後の景気について)

(%)

	回答件数(件)	仕事の状況について											仕事を通して接するお客様の様子について											その他	分らない	
		売上動向	利益動向	受注動向	資金繰り・資金調達動向	同業他社の動向	取引先の動向	販売価格の動向	仕入れ等の価格の動向	人手不足	人手過剰	営業環境・操業環境の変動	経済情勢の変動	景気のいい話をよく聞く	不況・景気の先行きが不透明という話をよく聞く	収入増加への期待感がある	収入減少への不安感がある	物価が上がっている	物価が下がっている	自由に使えるお金が増えている	自由に使えるお金が減っている	人材募集をする企業・店が増えている	人材募集をする企業・店が減っている			
全体	『良くなっている』	23	39.1	26.1	21.7	0.0	21.7	21.7	17.4	0.0	43.5	0.0	17.4	4.3	21.7	8.7	26.1	4.3	4.3	4.3	0.0	4.3	52.2	0.0	0.0	0.0
	『どちらとも言えない』	76	61.8	27.6	22.4	1.3	13.2	3.9	17.1	9.2	46.1	0.0	3.9	21.1	0.0	39.5	2.6	21.1	5.3	1.3	2.6	19.7	26.3	1.3	1.3	3.9
	『悪くなっている』	20	65.0	15.0	10.0	15.0	25.0	20.0	10.0	5.0	30.0	0.0	20.0	5.0	0.0	60.0	0.0	60.0	10.0	15.0	5.0	30.0	15.0	5.0	5.0	0.0
販売関連	『良くなっている』	6	66.7	50.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	66.7	0.0	0.0	0.0
	『どちらとも言えない』	33	72.7	30.3	3.0	0.0	15.2	3.0	24.2	9.1	54.5	0.0	6.1	21.2	0.0	39.4	0.0	24.2	9.1	3.0	6.1	30.3	39.4	3.0	0.0	3.0
	『悪くなっている』	12	66.7	8.3	0.0	0.0	33.3	16.7	8.3	0.0	25.0	0.0	25.0	8.3	0.0	58.3	0.0	50.0	16.7	16.7	8.3	25.0	16.7	8.3	8.3	0.0
サービス関連	『良くなっている』	8	37.5	12.5	25.0	0.0	25.0	25.0	37.5	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0
	『どちらとも言えない』	26	65.4	38.5	38.5	0.0	19.2	3.8	19.2	15.4	46.2	0.0	3.8	23.1	0.0	42.3	7.7	19.2	3.8	0.0	0.0	19.2	15.4	0.0	0.0	0.0
	『悪くなっている』	5	80.0	40.0	40.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	80.0	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0
雇用関連	『良くなっている』	9	22.2	22.2	33.3	0.0	11.1	33.3	11.1	0.0	66.7	0.0	22.2	0.0	33.3	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	77.8	0.0	0.0	0.0
	『どちらとも言えない』	17	35.3	5.9	35.3	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	29.4	0.0	0.0	17.6	0.0	35.3	0.0	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	17.6	0.0	5.9	11.8
	『悪くなっている』	3	33.3	0.0	0.0	100.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	100.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

○3ヶ月後の景気について

販売関連	『良くなっている』	<ul style="list-style-type: none"> 景気への不安感是不変だが、顧客に向き合った地道な商売で状況を打開する。(百貨店, 総合スーパー) 付加価値のある商品が売れる。(百貨店, 総合スーパー) 現況よりの推移。(百貨店, 総合スーパー) 同業他社の売上状況や直近の株価の推移等。(百貨店, 総合スーパー)
	『どちらとも言えない』	<ul style="list-style-type: none"> 現状が3ヶ月で大きく変動するとは考えにくい。(コンビニエンスストア) 3カ月で大きく変わらないと思う。(百貨店, 総合スーパー) 現状厳しい状況が続き、先行き不透明に感じる。(百貨店, 総合スーパー) 湖西地域における競合他社出店の可能性がある。(百貨店, 総合スーパー)
	『悪くなっている』	<ul style="list-style-type: none"> 6月1日よりビール、宅配料、バター、粉類など値上げラッシュで良くなる見通しが無い。(百貨店, 総合スーパー)
サービス関連	『良くなっている』	(コメントなし)
	『どちらとも言えない』	<ul style="list-style-type: none"> 人口構造の変化。過疎化。(劇場) 秋の国内団体旅行が年々減っており、入込がよくない。(旅館, ホテル) 景気よりも、社会情勢や他社競合等に左右されているため、景気判断が難しい。(旅行業) 人手不足感が強く、世界情勢も不安定なのでお客様の動向が見通せない。(旅行業者代理業)
	『悪くなっている』	<ul style="list-style-type: none"> 稼働が少なくなる。(一般乗用旅客自動車運送業) 6月値上げあり。(旅館, ホテル)
雇用関連	『良くなっている』	<ul style="list-style-type: none"> 新規の受注が増えていく傾向。(職業紹介業)
	『どちらとも言えない』	<ul style="list-style-type: none"> 大きな雇用改善の要因は特に見当たらない。(ハローワーク) 今と3ヶ月後と同様。(職業紹介業) 先行き不透明。(職業紹介業) 不透明である。(労働者派遣業) 特に景気対策等の効果が少ない。(労働者派遣業) 悪くなることはないと思うが期待感はない。(労働者派遣業)
	『悪くなっている』	<ul style="list-style-type: none"> 法の改正等による利益率の低下。(労働者派遣業)

追加調査

平成 29 年度第 1 四半期 追加調査結果

【設問】雇用の状況について（調査票より抜粋）

雇用情勢が改善し、人手不足の声も聞かれています、貴社の雇用状況について伺います。

(a) 現在の従業員数の過不足感について、○をつけてください（○は1つ）。

- 1. 不足している →(b)へ
- 2. 今後不足する懸念がある →(b)へ
- 3. 適正(充足)
- 4. 過剰

(b) <上記で 1、2 と回答した方のみ>不足している(今後不足する)と考えられる人材について、○をつけてください（当てはまるすべてに○）。

- 1. 生産現場に携わる人材
- 2. 高度な技術を持つ人材
- 3. 研究・開発部門の人材
- 4. 海外との橋渡し役の人材
- 5. 営業部門の人材
- 6. 経営・企画部門の人材
- 7. 経理・総務・人事部門の人材
- 8. その他（具体的に：)

【集計結果】

1. 全体

(a) 現在の従業員数の過不足感

現在の従業員数の過不足感について、単一回答で尋ねたところ、「適正(充足)」が 41.1%(246 件)、「不足している」が 34.4%(206 件)という結果となった。

全体 上段:件数 下段:%	(a) 現在の従業員数の過不足感について			
	不足している	今後不足する懸念がある	適正(充足)	過剰
598	206	132	246	14
100.0	34.4	22.1	41.1	2.3

(※行方向での各回答数上位 1 位：網掛け。以下同様)

(b) <不足していると回答した方のみ>不足している(今後不足する)と考えられる人材

不足している（「不足している」、および「今後不足する懸念がある」と回答した企業の不足している(今後不足する)と考えられる人材について、複数回答で尋ねたところ、「生産現場に携わる人材」が 51.0%(172 件)と過半数を占め、「高度な技術を持つ人材」が 37.1%(125 件)と続いた。

全体 上段:件数 下段:%	(b) 不足している(今後不足する)と考えられる人材について							
	生産現場に携わる人材	高度な技術を持つ人材	研究・開発部門の人材	海外との橋渡し役の人材	営業部門の人材	経営・企画部門の人材	経理・総務・人事部門の人材	その他
337	172	125	36	9	85	22	32	31
	51.0	37.1	10.7	2.7	25.2	6.5	9.5	9.2

2. 地域別

(a) 現在の従業員数の過不足感

現在の従業員数の過不足感について、地域別にみると、概ね全体と同様に「適正（充足）」が最も割合が高いが、大津地域では「適正（充足）」と「不足している」が37.6%（35件）で同率、甲賀地域では「不足している」が42.1%（40件）と最も高い。

	全体 上段:件数 下段:%	(a) 現在の従業員数の過不足感について				
		不足している	今後不足する懸念がある	適正(充足)	過剰	
総計	598 100.0	206 34.4	132 22.1	246 41.1	14 2.3	
地域別	大津地域	93 100.0	35 37.6	23 24.7	35 37.6	0 0.0
	南部地域	164 100.0	51 31.1	38 23.2	71 43.3	4 2.4
	甲賀地域	95 100.0	40 42.1	19 20.0	36 37.9	0 0.0
	東近江地域	109 100.0	34 31.2	26 23.9	44 40.4	5 4.6
	湖東地域	56 100.0	20 35.7	12 21.4	23 41.1	1 1.8
	湖北地域	53 100.0	16 30.2	10 18.9	24 45.3	3 5.7
	高島地域	28 100.0	10 35.7	4 14.3	13 46.4	1 3.6

(b) <不足していると回答した方のみ>不足している(今後不足する)と考えられる人材

不足している（「不足している」、および「今後不足する懸念がある」）と回答した企業の不足している（今後不足する）と考えられる人材について、地域別にみると、全体と同様に「生産現場に携わる人材」が最も割合が高い。次いで「高度な技術を持つ人材」が全体と同様に高いが、高島地域は「営業部門の人材」、「その他」も21.4%（3件）と同率で割合が高い。

	全体 上段:件数 下段:%	(b) 不足している(今後不足する)と考えられる人材について							
		生産現場に携わる人材	高度な技術を持つ人材	研究・開発部門の人材	海外との橋渡し役の人材	営業部門の人材	経営・企画部門の人材	経理・総務・人事部門の人材	その他
総計	337	172 51.0	125 37.1	36 10.7	9 2.7	85 25.2	22 6.5	32 9.5	31 9.2
地域別	大津地域	57 45.6	26 40.4	23 7.0	4 1.8	14 24.6	3 5.3	4 7.0	6 10.5
	南部地域	89 46.1	41 38.2	34 9.0	8 2.2	24 27.0	7 7.9	12 13.5	6 6.7
	甲賀地域	59 59.3	35 35.6	21 13.6	8 3.4	12 20.3	5 8.5	4 6.8	4 6.8
	東近江地域	60 58.3	35 36.7	22 16.7	10 5.0	21 35.0	4 6.7	7 11.7	6 10.0
	湖東地域	32 46.9	15 37.5	12 6.3	2 0.0	4 12.5	1 3.1	2 6.3	4 12.5
	湖北地域	26 46.2	12 38.5	10 11.5	3 3.8	7 26.9	1 3.8	2 7.7	2 7.7
	高島地域	14 57.1	8 21.4	3 7.1	1 7.1	0 0.0	3 21.4	1 7.1	1 7.1

3. 業種別

(a) 現在の従業員数の過不足感

現在の従業員数の過不足感について、業種別にみると、概ね全体と同様に「適正（充足）」が最も割合が高く、次いで「不足している」と続く。唯一、小売業では「今後不足する懸念がある」が25.0%（10件）が「不足している」より割合が高い。

	全体 上段：件数 下段：%	(a) 現在の従業員数の過不足感について				
		不足している	今後不足する懸念がある	適正(充足)	過剰	
総計	598 100.0	206 34.4	132 22.1	246 41.1	14 2.3	
業種別	製造業	294 100.0	103 35.0	68 23.1	116 39.5	7 2.4
	建設業	77 100.0	30 39.0	14 18.2	32 41.6	1 1.3
	卸売業	42 100.0	12 28.6	9 21.4	20 47.6	1 2.4
	小売業	40 100.0	9 22.5	10 25.0	19 47.5	2 5.0
	サービス業	145 100.0	52 35.9	31 21.4	59 40.7	3 2.1

(b) <不足していると回答した方のみ>不足している(今後不足する)と考えられる人材

不足している（「不足している」、および「今後不足する懸念がある」）と回答した企業の不足している（今後不足する）と考えられる人材について、業種別にみると、製造業は「生産現場に携わる人材」、建設業、サービス業は「高度な技術を持つ人材」、卸売業、小売業は「営業部門の人材」が最も割合が高い。

	全体 上段：件数 下段：%	(b) 不足している(今後不足する)と考えられる人材について							
		生産現場に携わる人材	高度な技術を持つ人材	研究・開発部門の人材	海外との橋渡し役の人材	営業部門の人材	経営・企画部門の人材	経理・総務・人事部門の人材	その他
総計	337	172 51.0	125 37.1	36 10.7	9 2.7	85 25.2	22 6.5	32 9.5	31 9.2
業種別	製造業	171 75.4	129 33.3	57 15.8	27 3.5	6 19.9	34 5.3	9 9.4	16 4.7
	建設業	43 41.9	18 58.1	25 2.3	1 0.0	0 23.3	10 7.0	3 4.7	2 4.7
	卸売業	21 0.0	0 28.6	6 4.8	1 4.8	1 52.4	11 9.5	2 14.3	3 4.8
	小売業	19 15.8	3 21.1	4 5.3	1 0.0	0 52.6	10 10.5	2 15.8	3 5.3
	サービス業	83 26.5	22 39.8	33 7.2	6 2.4	2 24.1	20 7.2	6 9.6	8 22.9

4. 資本金別

(a) 現在の従業員数の過不足感

現在の従業員数の過不足感について、資本金別にみると、1,000万円以下、1億円超～3億円以下は「適正(充足)」、1,000万円超～5,000万円以下、5,000万円超～1億円以下、3億円超は「不足している」が最も割合が高い。

		全体 上段:件数 下段:%	(a) 現在の従業員数の過不足感について			
			不足している	今後不足する懸念がある	適正(充足)	過剰
総計		598 100.0	206 34.4	132 22.1	246 41.1	14 2.3
資本金別	1,000万円以下	295 100.0	89 30.2	57 19.3	142 48.1	7 2.4
	1,000万円超～5,000万円以下	194 100.0	68 35.1	54 27.8	67 34.5	5 2.6
	5,000万円超～1億円以下	48 100.0	23 47.9	9 18.8	15 31.3	1 2.1
	1億円超～3億円以下	15 100.0	5 33.3	4 26.7	6 40.0	0 0.0
	3億円超	24 100.0	12 50.0	6 25.0	5 20.8	1 4.2

(b) <不足していると回答した方のみ>不足している(今後不足する)と考えられる人材

不足している(「不足している」、および「今後不足する懸念がある」と回答した企業の不足している(今後不足する)と考えられる人材について、資本金別にみると、全体と同様に「生産現場に携わる人材」の割合が最も高い。次いで「高度な技術を持つ人材」となっているが、1億円超～3億円以下は「営業部門の人材」も33.3%(3件)と同率で2位となっている。

		全体 上段:件数 下段:%	(b) 不足している(今後不足する)と考えられる人材について							
			生産現場に携わる人材	高度な技術を持つ人材	研究・開発部門の人材	海外との橋渡し役の人材	営業部門の人材	経営・企画部門の人材	経理・総務・人事部門の人材	その他
総計		337	172 51.0	125 37.1	36 10.7	9 2.7	85 25.2	22 6.5	32 9.5	31 9.2
資本金別	1,000万円以下	145	60 41.4	58 40.0	12 8.3	3 2.1	33 22.8	10 6.9	12 8.3	13 9.0
	1,000万円超～5,000万円以下	122	71 58.2	46 37.7	11 9.0	2 1.6	37 30.3	7 5.7	12 9.8	11 9.0
	5,000万円超～1億円以下	32	19 59.4	9 28.1	4 12.5	1 3.1	7 21.9	2 6.3	3 9.4	2 6.3
	1億円超～3億円以下	9	6 66.7	3 33.3	2 22.2	0 0.0	3 33.3	1 11.1	0 0.0	1 11.1
	3億円超	18	13 72.2	7 38.9	5 27.8	2 11.1	2 11.1	0 0.0	4 22.2	1 5.6

5. 従業員別

(a) 現在の従業員数の過不足感

現在の従業員数の過不足感について、従業員別にみると、30人以下は「適正（充足）」、31～50人、51～100人、101～300人、301人以上は「不足している」が最も割合が高い。

		全体 上段:件数 下段:%	(a) 現在の従業員数の過不足感について			
			不足している	今後不足する懸念がある	適正(充足)	過剰
総計		598 100.0	206 34.4	132 22.1	246 41.1	14 2.3
従業員別	30人以下	425 100.0	127 29.9	85 20.0	202 47.5	11 2.6
	31～50人	61 100.0	23 37.7	19 31.1	17 27.9	2 3.3
	51～100人	48 100.0	22 45.8	14 29.2	12 25.0	0 0.0
	101～300人	42 100.0	24 57.1	6 14.3	11 26.2	1 2.4
	301人以上	18 100.0	10 55.6	6 33.3	2 11.1	0 0.0

(b) <不足していると回答した方のみ>不足している(今後不足する)と考えられる人材

不足している(「不足している」、および「今後不足する懸念がある」と回答した企業の不足している(今後不足する)と考えられる人材について、従業員別にみると、全体と同様に「生産現場に携わる人材」の割合が最も高い。次いで概ね「高度な技術を持つ人材」となっているが、51～100人は「営業部門の人材」の割合が最も高い。

		全体 上段:件数 下段:%	(b) 不足している(今後不足する)と考えられる人材について							
			生産現場に携わる人材	高度な技術を持つ人材	研究・開発部門の人材	海外との橋渡し役の人材	営業部門の人材	経営・企画部門の人材	経理・総務・人事部門の人材	その他
総計		337	172 51.0	125 37.1	36 10.7	9 2.7	85 25.2	22 6.5	32 9.5	31 9.2
従業員別	30人以下	211	91 43.1	89 42.2	17 8.1	5 2.4	55 26.1	15 7.1	21 10.0	16 7.6
	31～50人	42	26 61.9	13 31.0	4 9.5	0 0.0	11 26.2	3 7.1	2 4.8	4 9.5
	51～100人	36	22 61.1	6 16.7	7 19.4	1 2.8	11 30.6	4 11.1	5 13.9	4 11.1
	101～300人	30	23 76.7	11 36.7	4 13.3	2 6.7	6 20.0	0 0.0	2 6.7	3 10.0
	301人以上	16	10 62.5	6 37.5	4 25.0	1 6.3	2 12.5	0 0.0	2 12.5	2 12.5

6. 大企業・中小企業別

(a) 現在の従業員数の過不足感

現在の従業員数の過不足感について、大企業・中小企業別にみると、大企業は「不足している」、中小企業は「適正（充足）」が最も割合が高い。

		全体 上段:件数 下段:%	(a) 現在の従業員数の過不足感について			
			不足している	今後不足する懸念がある	適正(充足)	過剰
総計		598 100.0	206 34.4	132 22.1	246 41.1	14 2.3
規模別	大企業	18 100.0	9 50.0	6 33.3	3 16.7	0 0.0
	中小企業	580 100.0	197 34.0	126 21.7	243 41.9	14 2.4

(b) <不足していると回答した方のみ>不足している(今後不足する)と考えられる人材

不足している(「不足している」、および「今後不足する懸念がある」と回答した企業の不足している(今後不足する)と考えられる人材について、大企業・中小企業別にみると、全体と同様に「生産現場に携わる人材」の割合が最も高く、次いで「高度な技術を持つ人材」と続く。

		全体 上段:件数 下段:%	(b) 不足している(今後不足する)と考えられる人材について							
			生産現場に携わる人材	高度な技術を持つ人材	研究・開発部門の人材	海外との橋渡し役の人材	営業部門の人材	経営・企画部門の人材	経理・総務・人事部門の人材	その他
総計		337	172 51.0	125 37.1	36 10.7	9 2.7	85 25.2	22 6.5	32 9.5	31 9.2
規模別	大企業	15	9 60.0	6 40.0	3 20.0	1 6.7	2 13.3	0 0.0	3 20.0	1 6.7
	中小企業	322	163 50.6	119 37.0	33 10.2	8 2.5	83 25.8	22 6.8	29 9.0	30 9.3